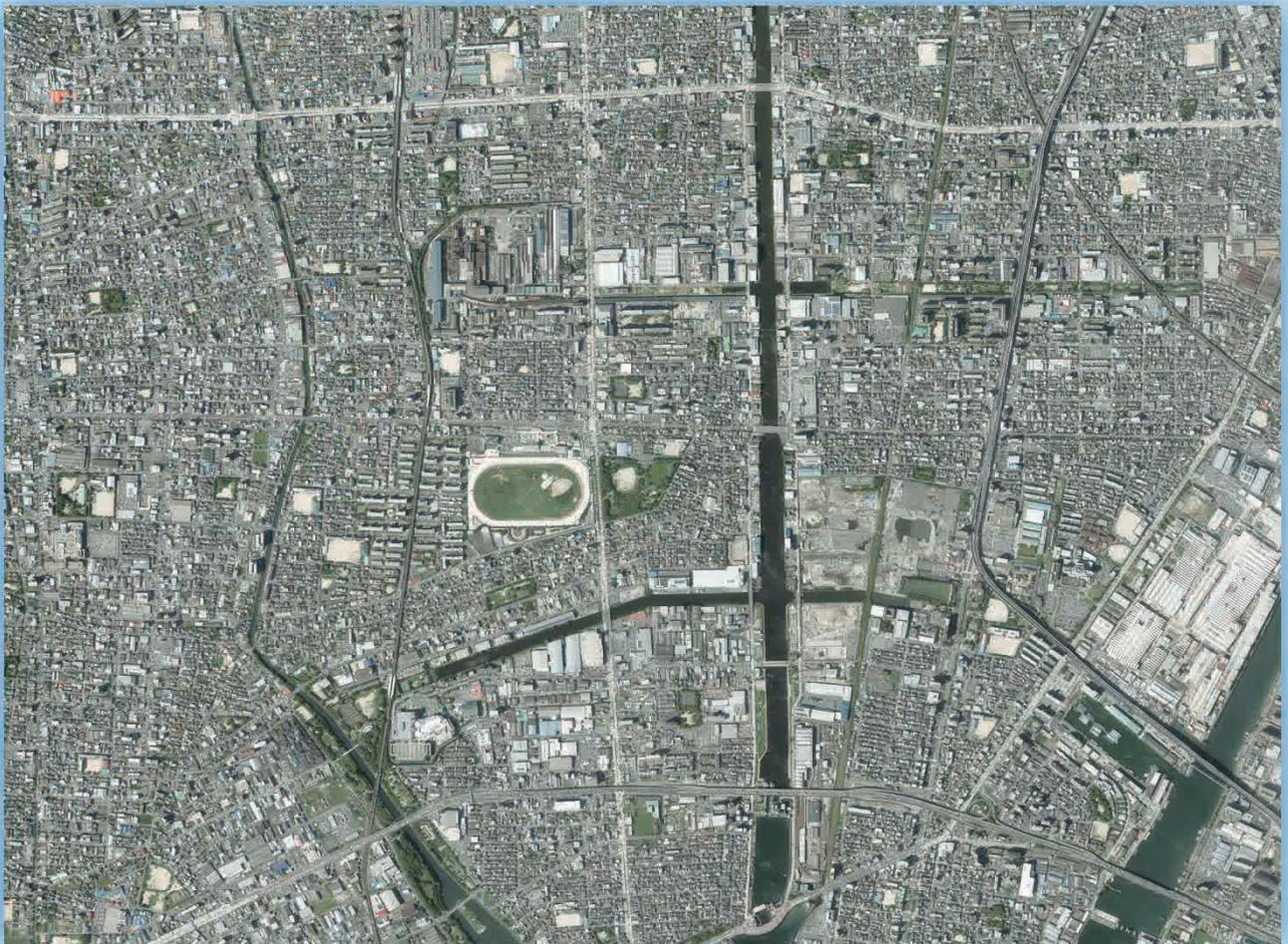


港北エリアまちづくり将来ビジョン



令和2年10月
名古屋市

目 次

第1章	まちづくり将来ビジョンの策定について	1
1-1	策定にあたって	1
1-2	港北エリアの現況と特性・課題	6
第2章	まちづくりの将来展望	11
2-1	まちづくりの視点	11
2-2	基本理念と目標	14
2-3	基本方針	15
2-4	将来の土地利用イメージ	19
第3章	まちづくりの将来展望のイメージ	21
3-1	まちづくりプロジェクトのイメージ	22
3-2	施策の展開イメージ	30
3-3	今後の展開に向けて	30
参考資料		
1	地域の歴史変遷	31
2	上位・関連計画	33
3	アンケート調査結果	42
4	シンポジウム開催状況	46
5	有識者懇談会について	48
6	庁内検討会について	50

第1章 まちづくり将来ビジョン策定について

1-1 策定にあたって

(1) 策定の背景と目的

港北エリアは、名古屋市南西部の名古屋競馬場付近を中心とした半径2 km程度を設定範囲としており、すぐ南のガーデンふ頭や名古屋競馬場から約3 km南の金城ふ頭など名古屋港に近いエリアです。

アクセスとしては、あおなみ線で名古屋駅から名古屋競馬場前駅まで約13分（約7 km）、地下鉄名港線で金山駅から東海通駅まで約7分（約4 km）で繋がっているほか、中川運河や名古屋高速道路もエリア内を通過しており、都心部と臨海部を繋ぐ南北の中間地点となっています。また、国道1号、国道23号といった主要な道路が東西に走っており、交通至便なエリアです。

エリア内の開発動向は、名古屋競馬場前駅周辺では、令和4年に名古屋競馬場が弥富市へ移転する予定であり、その跡地（約20 ha）において令和8年に開催される第20回アジア競技大会メイン選手村としての活用及び大会後の後利用事業が検討されています。また、港区役所駅周辺では、みなとアクルス（約33 ha）の開発が進んでおり、平成30年にはその中核となるららぽーとが開業するなど、将来に渡り大規模な開発が予定されているエリアです。

一方、当エリアは、充実した鉄道や幹線道路などの交通基盤、水辺空間や公園・緑地など、様々な地域資源を有しています。特に、中川運河は、水上交通や漕艇センターを拠点とした水上スポーツに活用されています。

港北エリアでは、平成16年にあおなみ線、平成25年に名古屋高速が開通し、交通基盤の整備が進んできており、みなとアクルスが新たな拠点として整備されつつある状況の中、今後予定されている名古屋競馬場跡地での開発を契機として、地域資源を今まで以上に有効活用することにより、利便性、回遊性を向上させ、憩いや賑わいの創出による新たな地域ブランドの形成に向け、アジア競技大会メイン選手村の後利用事業やさらにその先を見据えた周辺のまちづくりを推進するため「港北エリアまちづくり将来ビジョン」を策定しました。



名古屋競馬場前駅（写真上）、荒子川公園駅（写真下）
出典：あおなみ線HP

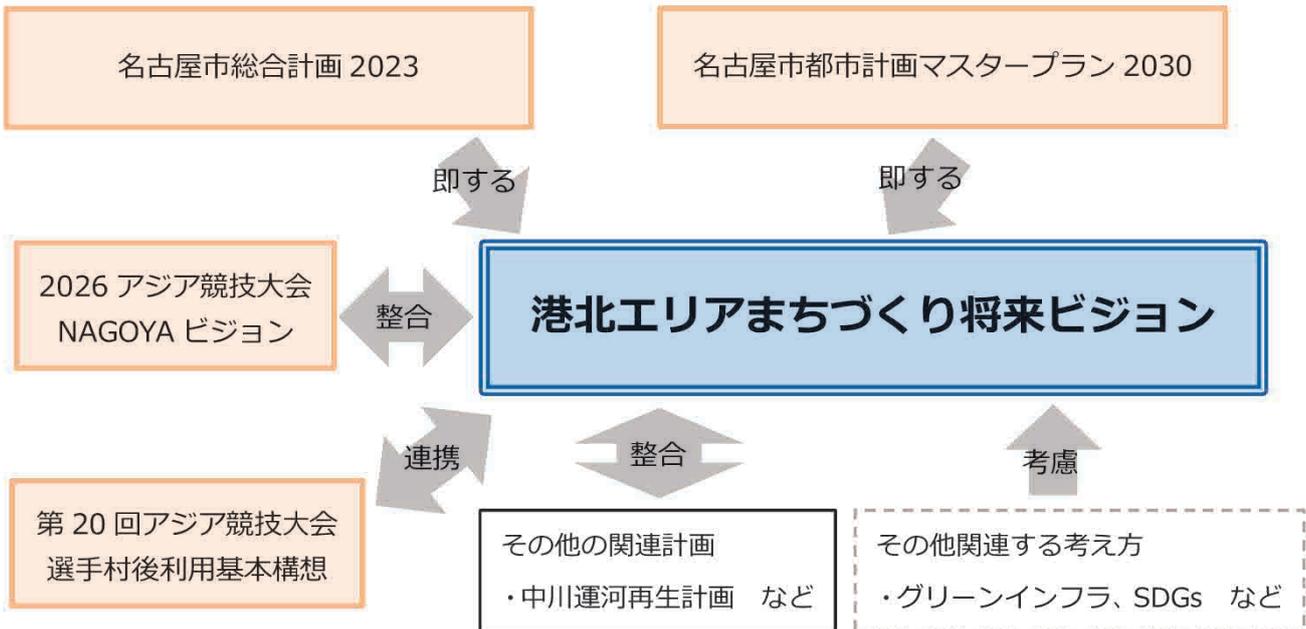


荒子川公園（写真上）、土古公園（写真下）
出典：名古屋市港区HP

(2) 位置づけ

港北エリアまちづくり将来ビジョンは、名古屋競馬場跡地での選手村整備を契機として捉え、当エリアの状況の変化を踏まえ、本市等の関連計画と整合・連携を図りつつ、将来のまちづくりの展望をまとめたものです。したがって、施策や事業の実現性を担保したのではなく、当面の検討の方向性・可能性を示したものです。行政としての姿勢を示しつつ、市民や企業の方にとっても、このエリアの将来のまちづくりの指針となるような観点で作成した将来の展望です。

●本将来ビジョンと主な関連計画との関係



港北エリアは、市の関連計画に位置づけられており、本市の総合計画である「名古屋市総合計画 2023」においては、令和8（2026）年の第20回アジア競技大会の開催と令和9（2027）年のリニア中央新幹線の開業を重要な柱と位置づけており、アジア競技大会のメイン選手村となる名古屋競馬場跡地の周辺の港北エリアまちづくりに取り組み、地域の課題解決、魅力向上に資する新たな価値・機能を創出していく必要があるとされています。

また、「名古屋市都市計画マスタープラン 2030」では、港北エリアは、重点的にまちづくりを展開する8つの地域のうちの一つとして位置づけられているとともに、「名古屋城を核とした名古屋港に至るまちづくり・ものづくり魅力軸」や都心とみなとの拠点をつなぐ「水辺連携軸」上にあり、さらなる交流の活性化をはかるため魅力向上や資源間の連携が必要なエリアとして、これからの本市のまちづくりにおいて重要な拠点の一つとなっています。

(3) 港北エリアの範囲

名古屋競馬場を含む、概ね、地下鉄名港線（東）、荒子川（西）、国道1号（北）、荒子川運河及び荒子川公園（南）で囲まれたエリアを「港北エリア」として設定しました。

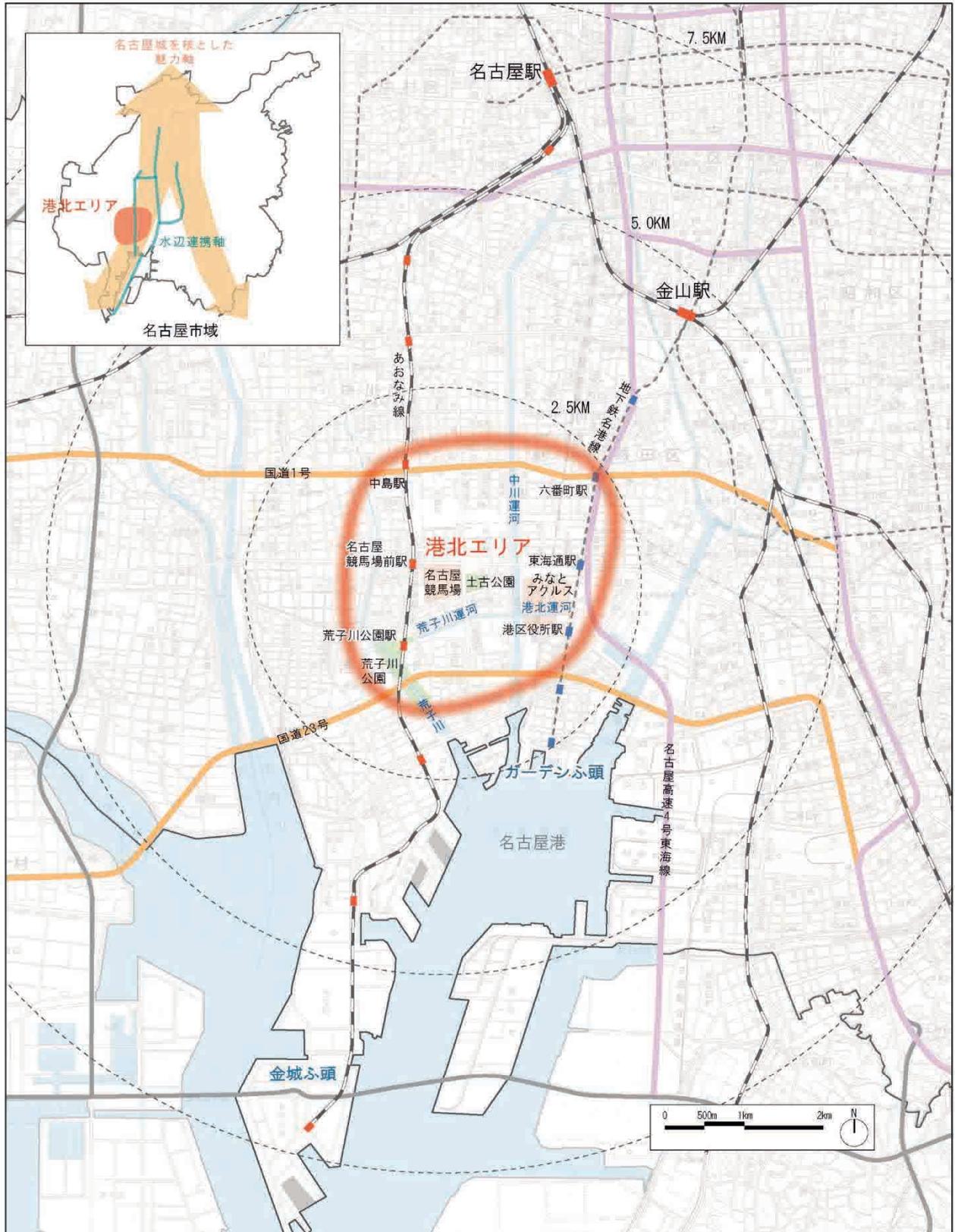
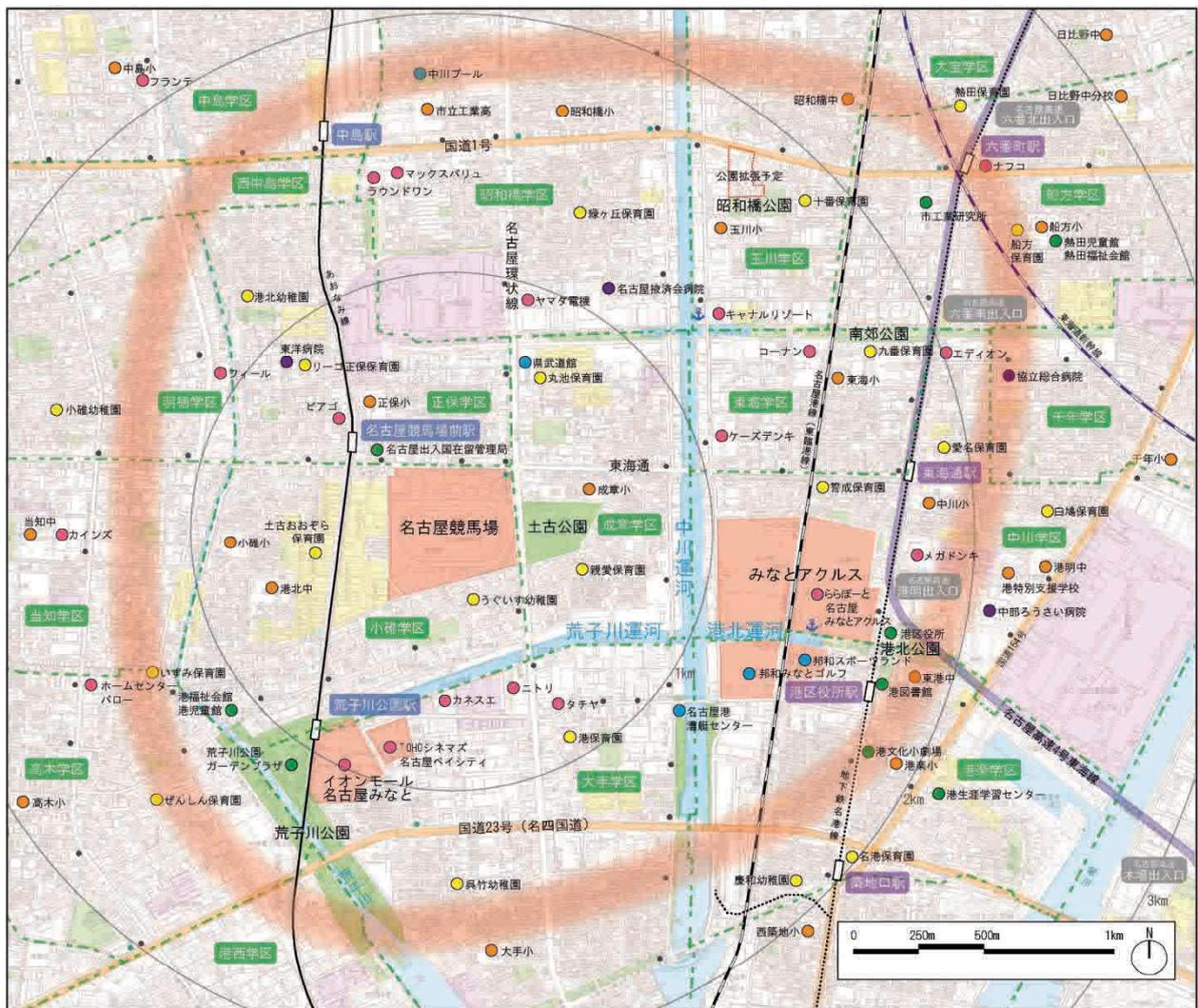


図 港北エリアの範囲

(4) 港北エリアの概要

港北エリア及び周辺は、昭和初期までは主に干拓新田として土地利用され、平坦な土地がひろがっています。昭和初期における中川運河の築造とともに区画整理、道路等の都市基盤整備が進められました。

港北エリアは、地下鉄名港線、あおなみ線、国道1号、国道23号、東海通、名古屋環状線、江川線、名古屋高速道路などの交通基盤が整っていると同時に、中川運河、荒子川運河、港北運河、荒子川などの水辺空間や、荒子川公園、土古公園などの公園・緑地があるエリアです。また、土地利用としては、住宅、工業、商業などの多様な都市機能が集積しており、名古屋競馬場、みなとアクルス、イオンモール名古屋みなと、市営住宅、工場等の大規模な土地利用が多くみられます。



凡 例			
	港北エリア		JR
	市営・県営住宅		新幹線
	国道		あおなみ線
	高速道路		学区線
	地下鉄		運河・河川
	公園・緑地		保育園・幼稚園
	工業		小中学校、高校等
	商業施設・娯楽施設		商業施設・娯楽施設
	水上交渉(乗降所)		体育施設
	バス停(市営)		公共施設
	バス停(三重交通)		医療施設
	学区名		施設

図 港北エリアの現況図

【港北エリアにおける主な現況写真】



名古屋競馬場前駅
(あおなみ線)



港区役所駅
(地下鉄名港線)



東海通



中川運河
(いろは橋)



荒子川運河



港北運河
(みなとアクルス乗船場)



荒子川



荒子川公園



土古公園



名古屋競馬場



みなとアクルス



イオンモール名古屋みなと



平和橋



地域のお祭り



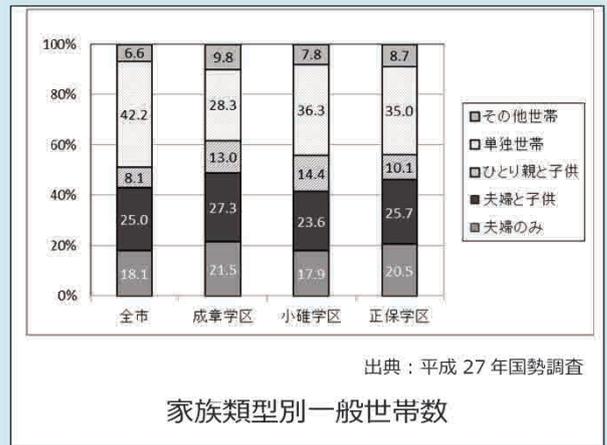
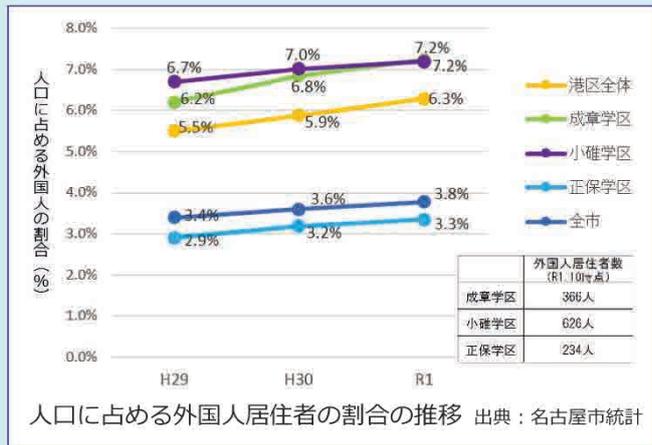
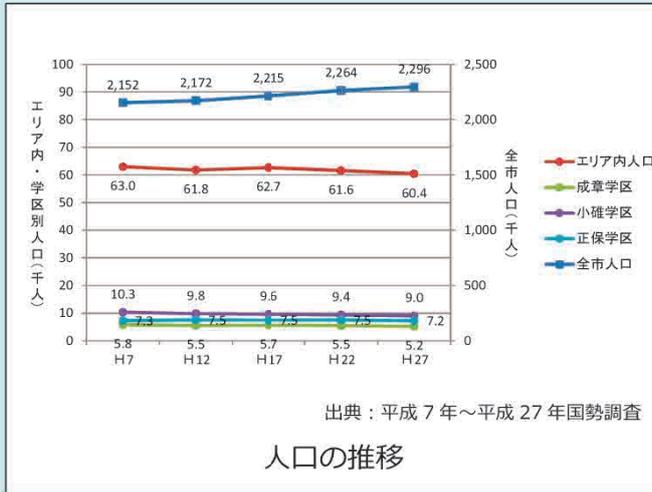
地域の盆踊り大会
みなとアクルス「デカゴン」

出典：みなとアクルス HP

1-2 港北エリアの現況と特性・課題

(1) 港北エリアの現況 (※エリア中央の成章学区、小碓学区、正保学区の3学区を抽出)

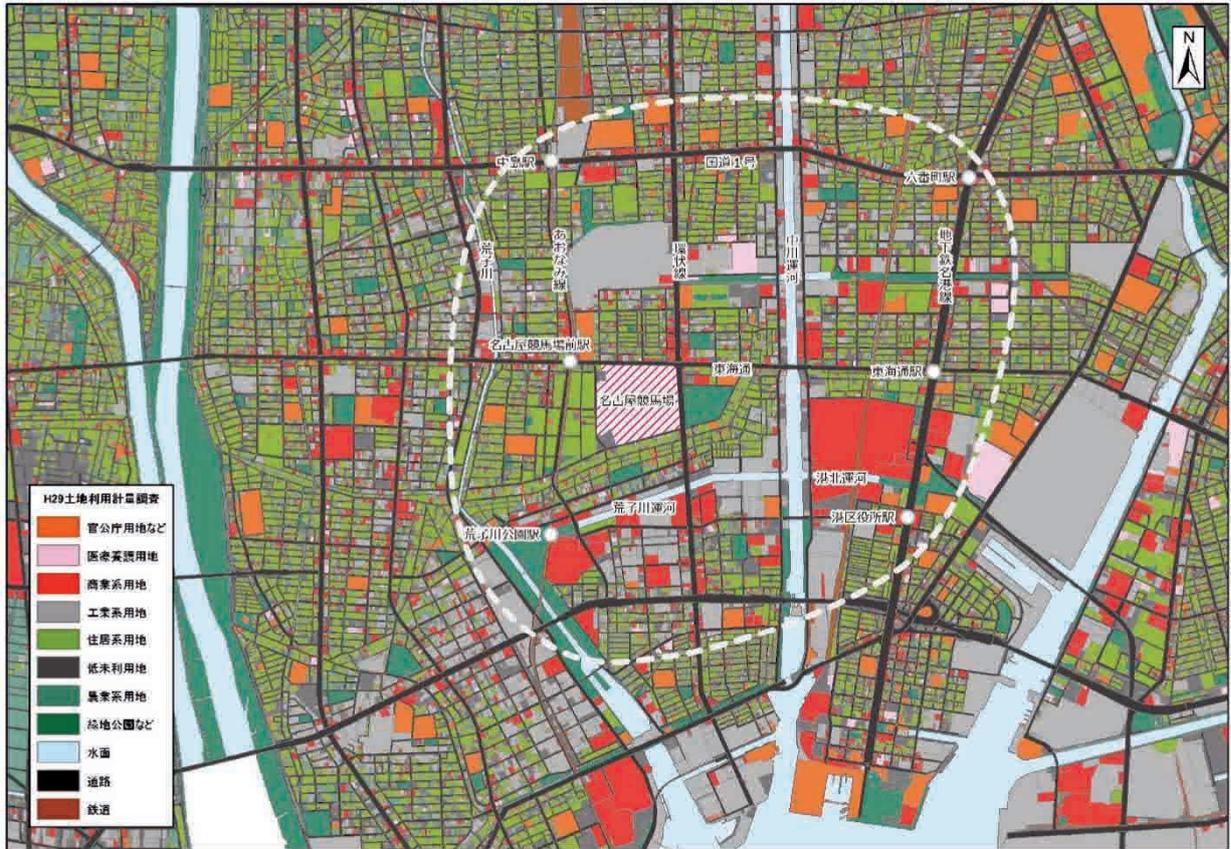
①人口・世帯数



人口は、やや減少傾向にあり、市全体と比べて高齢者率、外国人居住者率が高いです

- ・ 全市人口が微増傾向にありますが、港北エリアの人口は減少傾向にあります。
- ・ 65歳以上の人口割合が、全市の24.2%に比べて港北エリア全体及びエリア内の3学区はいずれも3~4%ほど多くなっています。
- ・ 港北エリアにおける人口に占める外国人居住者の割合は過去3年間の推移をみると増加傾向にあり、全市の割合に比べて港区の割合が2~3%ほど多くなっており、成章学区、正保学区の割合は港区の割合を上回っています。また、外国人居住者数は小碓学区が多くなっています。
- ・ 家族類型別にみると、市全体と比べて、「夫婦と子供の世帯」や「ひとり親と子供の世帯」が多く、「単独世帯」は少ない傾向がみられます。

②土地・建物利用

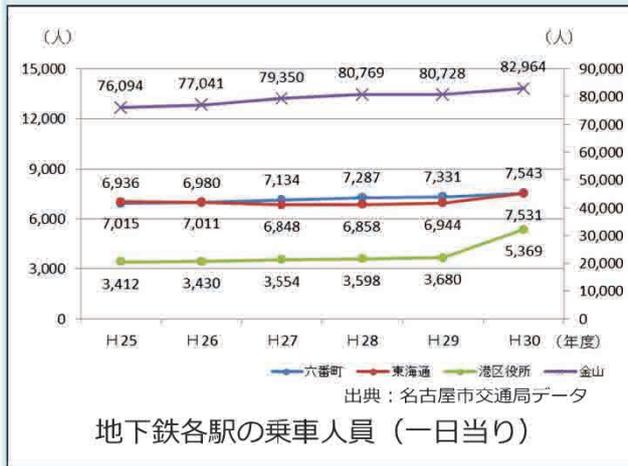
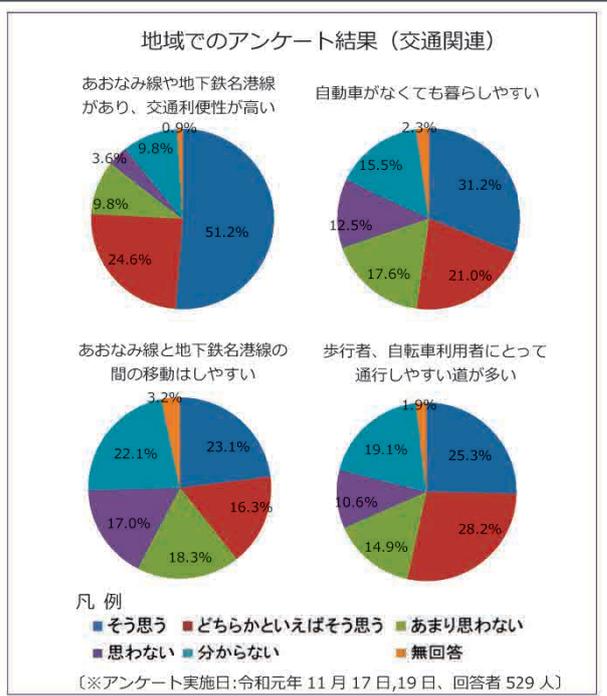


※名古屋競馬場については、土地利用転換が予定されています。

住宅や工場等が混在しているエリアであり、幹線道路沿いは多くの商業施設が立地し、運河沿いは工業系の土地利用となっています

- ・名古屋競馬場は、競馬場移転後の活用が検討されており、今後、土地利用の転換が予定されています。
- ・運河や河川の水辺の割合が多いほか、名古屋競馬場に隣接する土古公園など、まとまった公園・緑地が点在しています。
- ・港北エリアは、住居系用地が広がっていますが、エリア北部に大規模な工業系用地があるほか、運河沿いにおいても工業系用地として利用されています。また、幹線道路及び鉄道沿いは商業系用地となっています。
- ・広域からのアクセス条件に優れているため、工業・物流機能の集積があります。

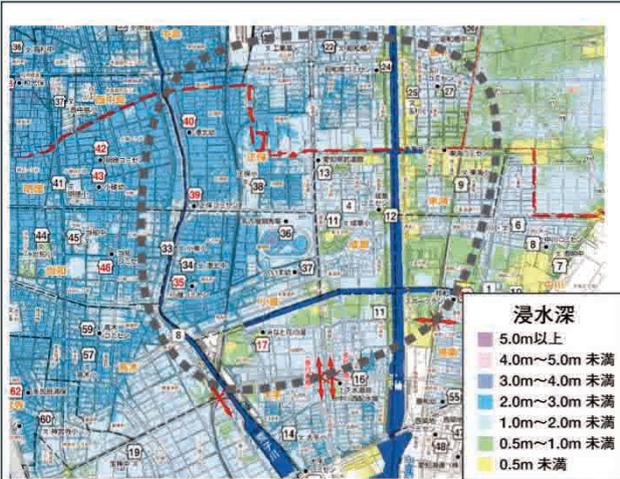
③交通環境



公共交通網が整備されており、鉄道の乗車人員は増加傾向にあります

- ・エリア内には、地下鉄名港線の駅が3駅（六番町駅、東海通駅、港区役所駅）、あおなみ線の駅が3駅（中島駅、名古屋競馬場前駅、荒子川公園駅）あります。また、バス路線が通っており、東西の路線として東海通、国道1号を中心に充実しています。
- ・地域でのアンケート結果では、鉄道があり交通利便性が高い、自動車が無くても暮らしやすい、歩行者や自転車が通行しやすい道が多い、と感じる方が多かったです。
- ・地下鉄各駅における乗車人員は増加傾向にあり、特に港区役所駅においては、平成30年9月のみなとアクルスの開業に伴うものと考えられる乗車人員の増加がみられます。また、あおなみ線各駅における乗車人員は、増加傾向にあります。
- ・ささしまライブと金城ふ頭を船で結ぶ「クルーズ名古屋」の乗船場がキャナルリゾート、みなとアクルスの2か所に設置されています。

④安心・安全



あなたの街の洪水・内水ハザードマップ
(庄内川・矢田川氾濫時)



地震災害危険度評価図 建物倒壊の危険性



あなたの街の津波ハザードマップ<浸水範囲>
(あらゆる可能性を考慮した最大クラス)



あなたの街の津波ハザードマップ
(津波避難ビル)

洪水による浸水被害の危険性が高いほか、地震災害等への配慮が必要です

- ・洪水による浸水想定は、最大で 3.0m未満となっています。特に港北エリアの西側の浸水が深く、2.0~3.0mの想定となっています。
- ・南海トラフ巨大地震の被害想定では、このエリアは震度 6 強かつ液状化可能性が大と想定されています。また、地震災害危険度評価における建物倒壊の危険性は、建物全壊率（あらゆる可能性を考慮した最大クラス）について 15%以上 20%未満が多くを占めています。
- ・津波による浸水想定は最大 2.0m~3.0mとなっています。
- ・市営住宅等が津波避難ビルとして指定されています。

(2) 地域の特性と課題

①地域の特性

●交通

- ・地下鉄名港線、あおなみ線が通り、名駅、金山、金城ふ頭などの都心域や拠点市街地を繋ぐエリアに位置しています。
- ・幹線道路を中心に市営バスが運行しており、鉄道とともに公共交通機関が充実しています。
- ・国道1号、国道23号、東海通、名古屋環状線、江川線、名古屋高速道路の広域幹線道路が通り、広域からのアクセス性に優れています。

●環境

- ・中川運河、港北運河、荒子川運河のほか、土古公園、荒子川公園といった大規模な公園があり、特徴的な景観の形成、水上交通、生物の生息・生育の場、健康・レクリエーション活動等の地域ポテンシャルを有しています。

●都市機能等

- ・ものづくり産業、企業などの工業系土地利用が多くあります。
- ・大型商業施設、生活商業施設、ロードサイド型店舗が多く立地しています。
- ・武道館、漕艇センター、野球場等のスポーツ施設が立地しています。
- ・名古屋出入国在留管理局が立地しているため、多くの外国人来訪があります。

②地域の課題

●交通

- ・東海通を中心に充実している東西のバス路線を、より活用していく必要があります。
- ・エリア内における拠点間の繋がりをこれまで以上に強化していく必要があります。

●環境

- ・中川運河、港北運河、荒子川運河の沿川では、うるおい、憩い、賑わいをもたらすような空間を充実させていく必要があります。
- ・広域幹線道路が多く自動車交通が中心の都市空間となっており、起伏の少ないエリアの特性を活かした歩行者が移動しやすい環境を創出していく必要があります。

●安心・安全

- ・水害や、地震による津波や液状化などの災害リスクが高い地域です。
- ・エリア内には建物倒壊の危険性が高い箇所があります。

●まちのイメージ・まちづくり活動

- ・市民や来訪者にとって、まちの個性やイメージがわかりにくいです。
- ・エリア内にはまちづくり活動を積極的に取り組む組織等が顕著にはみられません。
- ・多世代世帯も多い地域ですが、高齢単身世帯率や外国人居住者の割合が多く、多様な人々の交流によるコミュニティの醸成が求められます。

第2章 まちづくりの将来展望

2-1 まちづくりの視点

地域特性と課題から、まちづくりの視点を以下のとおり定めます。

運河から始まるまちづくり

都心とみなとをつなぐ中川運河は、港北エリア内を東西に延びる港北運河、荒子川運河とともに、かつて水運による物流の軸として名古屋の経済・産業の発展を支えてきました。しかしながら、その後、水運物流の減少を背景にその役割が小さくなり、今ではこの広大な水面が都心の貴重な水辺空間として注目をあつめています。

物流を担う運河からにぎわいをもたらす運河へと再生し、再び水辺空間とともにまちを活性化するために、港北エリアにおいては、エリア内を縦横に巡る運河を活用して地域住民や来訪者が水辺に親しめる環境を整備し、まちの賑わい創出・回遊性向上につなげていくことが求められます。また、運河のポテンシャルを最大限引き出す水辺の活用を通じて、港北エリアの「運河のまち」としてのイメージが際立っていくものと考えられます。

交通基盤の活用

港北エリアには、都心とみなとを結ぶ地下鉄名港線、あおなみ線が通っており、中川運河では、水上交通の「クルーズ名古屋」が運航されています。また、エリア内には、国道1号、国道23号、東海通、名古屋高速道路なども通っており、港北エリアでは、これらの交通基盤による優れたアクセス性を活かし、交流人口が増加することが期待されます。

港北エリアの交流促進には、賑わい機能の誘導とともに、公共交通は使いやすさ・分かりやすさに配慮し、誰もが安心・安全に移動できるユニバーサルデザイン[※]の充実を図るなど安心・安全に移動できる環境整備を行うことで、地域住民・来訪者の利便性を高め、まちの回遊性を向上させることが有効です。そしてそれが都心とみなとをつなぐ拠点として相応しいまちのイメージ向上にもつながると考えられます。

※ユニバーサルデザイン：製品、環境、建物、空間などをあらゆる人が利用できるようにデザインすること。

緑の活用

従来の経済成長、人口増加等を背景とした緑とオープンスペースの「量」の整備に対して、近年、社会の成熟化、市民の価値観の多様化、都市インフラの一定の整備等を背景とし、緑とオープンスペースが持つ多機能性を最大限引き出すことが重視されてきています。

港北エリアのまちづくりでは、土古公園、荒子川公園等の公園・緑地を活用し、そのポテンシャルを柔軟な発想で引き出すことで質の高い空間を創出し、中川運河等を活用した水辺に親しむ環境整備と合わせて、港北エリアならではの魅力的な都市環境を創造していくことが求められます。

選手村後利用との連携

アジア競技大会の選手村は、大会後もレガシー（遺産）として有効活用されるよう、大会後のまちづくりにおけるハード・ソフトの取り組みとの連携が重要です。

アジア競技大会の選手村後利用では、港北エリアのイメージアップや魅力向上に資する新たな価値・機能の創出が期待されます。また、選手村後利用と土古公園や荒子川公園、中川運河等の活用が連携し、選手村後利用施設及び周辺において、地域住民や来訪者のイベント・スポーツ・健康活動、散策などに活用できる環境の創出が求められます。

グリーンインフラ[※]の展開

緑は、憩いや安らぎ等のホスピタリティの高い都市空間を提供するとともに、自然環境の力で地域課題に対応するグリーンインフラとして重要な役割を担っています。

洪水による浸水などの水害リスクが高く、また一部の市街地で火災延焼リスクがある港北エリアにおいては、浸水対策・延焼防止にグリーンインフラの展開が期待されます。

また、防災・減災のほかヒートアイランド対策や健康・レクリエーションなど、安全・快適な暮らしに役立つ機能を持つグリーンインフラの展開として、港北エリアが有する水と緑のポテンシャルを十分に活用していくことが求められます。

※グリーンインフラ：自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を積極的に活用して、さまざまな効果を得ようとする取り組み。

職住・多文化の共存

港北エリアは、住宅や町工場が混在し、お祭りなどを通じて子どもからお年寄りまで地域が繋がる「下町感」のあるエリアです。また、市域全体に比べて外国人居住者が多く、近年増加傾向にあります。

港北エリアにおいては、職住が共存した「下町感」を活かすとともに、外国人居住者を含めて新たな交流を生む開かれたまちであることが求められます。

産業・技術の活用

港北エリアは、名古屋のものづくり産業を支える企業・工場が多く立地しており、それらの企業・工場を引き続き支援するとともに、必要に応じて、工場のリノベーションや運河沿いの土地利用転換など、ものづくりのDNAを活かしたまちづくりが考えられます。

エリアの強みでもあるものづくり産業や商業など多様な企業が発展しつつ、先進技術の活用などによるイノベーション^{*}の創出が期待されます。

シビックプライドの醸成

人口減少の局面においても将来にわたり持続的に発展していくためには、日々の暮らしの安心・安全が確保され、誰もが自らの能力と可能性を最大限に発揮し活躍できるまち、未来を担う子ども・若者が育ち飛躍するまちとして、多くの人を惹きつける魅力的なまちであることが求められます。港北エリアにおいて、人々が暮らしたい、暮らし続けたい、訪れたいと思えるような、人々が憧れるまちを創造していくためには、地域に住み働く人々が積極的にまちを盛り上げていくことが必要であり、それが港北エリアのブランディングにも繋がると考えます。

シビックプライドのある人は、まちづくりへの積極的な参画が期待される「地域資源」との考えのもと、市民・地元企業・民間事業者など多様な主体が協働したシビックプライド醸成の取り組みが求められます。

^{*}イノベーション：従来の考え方にとらわれない自由な発想で、新たな価値を生み出し、人々の生活に劇的な変化をもたらすこと。

2-2 基本理念と目標

(1) 基本理念

まちづくりの視点を踏まえ、基本理念を次のように掲げます。

スマートオアシス港北

運河と緑が育む“新たなライフスタイル”の創造

港北エリアには、中川運河の水辺や大規模な公園の緑に親しめる生活環境、名古屋のものづくり産業を支えている技術など、地域固有の特徴があります。

港北エリアでは、こうした地域資源を活かし新たなライフスタイルを創造する、「居住」「産業」のバランスがとれた大都市名古屋の「憩い」「賑わい」のエリア（＝スマートオアシス）となるようなまちづくりに取り組みます。

(2) 目標

基本理念に基づき、次の3つの目標を設定します。

3つの目標

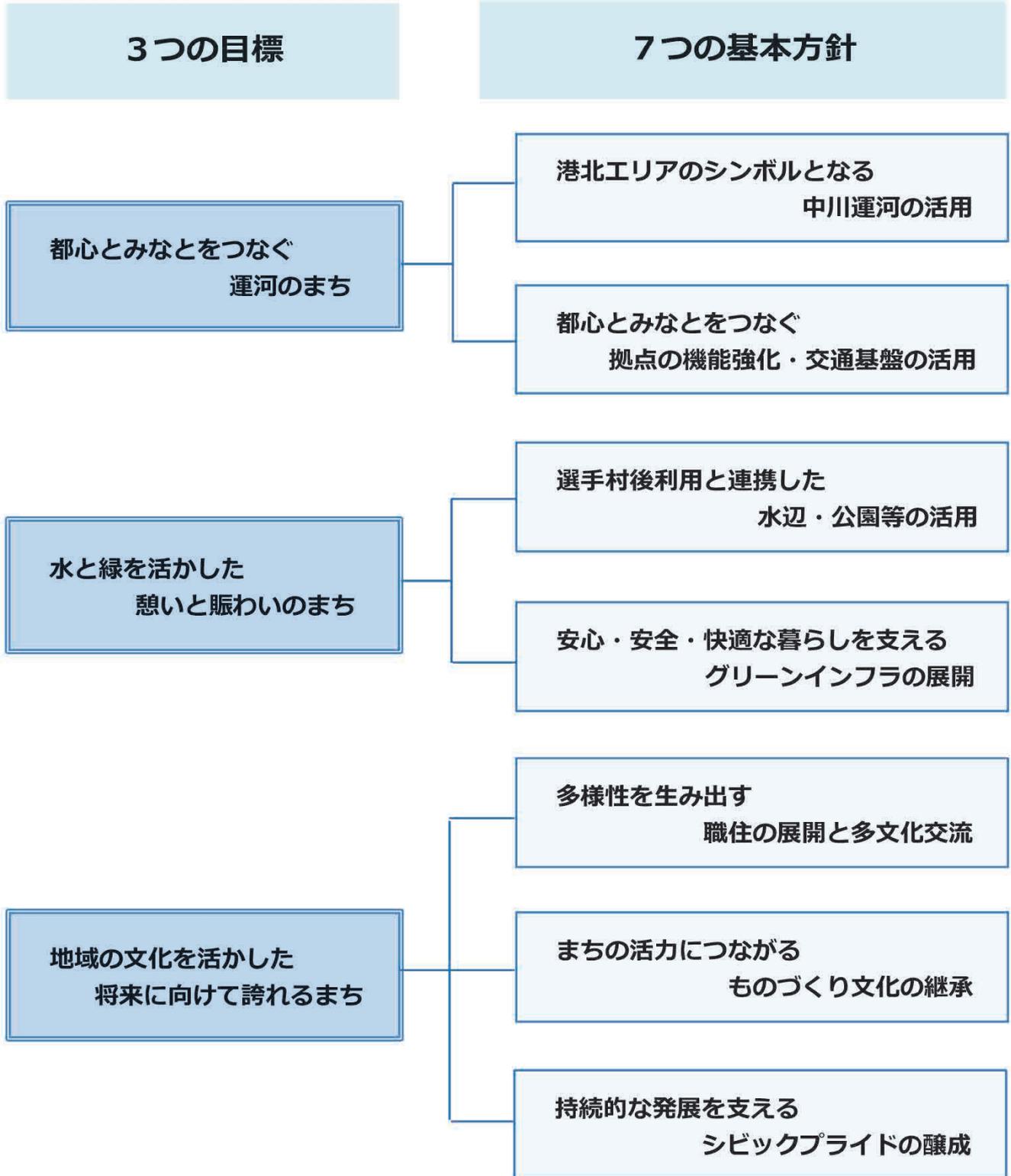
都心とみなとをつなぐ運河のまち

水と緑を活かした憩いと賑わいのまち

地域の文化を活かした将来に向けて誇れるまち

2-3 基本方針

3つの目標を達成するため、それぞれに対する基本方針を立てます。この方針に沿ったまちづくり施策を展開することで、3つの目標の達成を通じ、基本理念の実現をめざします。



都心とみなとをつなぐ運河のまち

エリア内を縦横に巡る運河をシンボル軸と位置づけ交流・創造の場として活用するとともに、充実した交通基盤による優れたアクセス性を活かし、都心とみなとをつなぐ拠点として相応しい「運河のまち」をめざします。

港北エリアのシンボルとなる中川運河の活用

- ・運河景観を活かした魅力あるまちづくりを推進するとともに、「港北」といえば誰もが「中川運河」と思い浮かべるように、エリア内を縦横に巡る中川運河、荒子川運河等の特徴に応じ、憩いや賑わいのある空間としてのイメージを発信し、水辺空間とともにまちの活性化を図ります。
- ・運河沿岸用地の利用転換や、プロムナード・水上交通の整備などの運河の活用により、運河特有の魅力を創出し、地域とともにある中川運河への愛着醸成を図ります。

都心とみなとをつなぐ拠点の機能強化・交通基盤の活用

- ・都心部とみなとをつなぎ、来訪者を迎えるまちとして、アジア競技大会の選手村後利用にあわせて商業・観光・スポーツなど多様な都市機能の導入・強化を検討します。
- ・選手村後利用と連携しつつ、あおなみ線や地下鉄名港線の駅周辺の回遊性向上・賑わい創出につながるような港北エリアの優れた交通基盤の活用を検討します。

水と緑を活かした憩いと賑わいのまち

選手村後利用と連携しつつ水辺や公園を有効に活用するとともに、グリーンインフラの展開を進め、市民の暮らしの中で水と緑がより身近な存在として感じられ、安心・安全、快適に暮らし続けられるまちをめざします。

選手村後利用と連携した水辺・公園等の活用

- ・アジア競技大会の選手村後利用と連携し、水と緑に親しみ、スポーツや健康をより身近に感じ、「憩い」「賑わい」につながる環境の創出に向け、中川運河、土古公園や荒子川公園等の活用を検討します。
- ・スポーツ大会や日々のジョギング、散策など余暇や健康づくりに利用できる環境の創出に向け、運河沿川のプロムナードの整備などを検討します。また、名古屋競馬場前駅を始めとした鉄道駅やエリア内の拠点間の回遊性を創出するため、新たな歩行者回遊方策を検討します。
- ・選手村後利用施設と土古公園との連携は、相互の回遊性の確保に向け、選手村後利用の開発内容を踏まえ民間活力の導入も視野に入れつつ、歩行者動線の繋がりなど効果のある施策や土古公園のさらなる魅力向上と利活用を検討します。また、荒子川公園駅周辺のまちの憩いと賑わい創出に向け、荒子川公園などのさらなる魅力向上と利活用を検討します。

安心・安全・快適な暮らしを支えるグリーンインフラの展開

- ・水害や地震発生時の津波・液状化のリスク、火災延焼リスクなど防災上課題となる地域において、防災機能の向上策として、グリーンインフラの展開により、ヒートアイランド対策にも寄与する雨水流出抑制機能の拡充などを検討します。

〔 災害発生時には地域や災害ボランティア団体・支援団体など各種団体と連携し、市民への円滑な情報提供ができるようにネットワークづくりが求められます。また、平常時においても、防災啓発事業や関連事業への参加促進が期待されます。〕

- ・安心・安全な暮らしには、防災・防犯に配慮したまちづくりの観点も重要であるため、市民・地元企業・行政による取り組みが期待されます。

地域の文化を活かした将来に向けて誇れるまち

文化、産業・技術、人といった地域資源を活かし、新たな価値の創造による生活の質の向上と、それに伴い生み出される時間を満喫するゆとりある暮らしが営め、様々な人々の交流を育める多様性があるまちをめざします。

多様性を生み出す職住の展開と多文化交流

- ・ 職と住のバランスが取れた親しみやすいまちの魅力を継承しつつ、子育て・家庭の団欒、スポーツ・健康活動、文化活動等の多様なライフスタイルの創造を図ります。
- ・ 関係機関・企業等と連携し、地域の交流を促進するイベントを開催するなど、企業や地域住民同士の顔の見える関係づくりにより、職（企業）と住（住民）の連携・共生とともに、外国人市民と日本人市民の多文化交流の促進の方策を検討します。

まちの活力につながるものづくり文化の継承

- ・ 名古屋の産業を支えた技術のまちとして、暮らしやニーズに沿った多様で高付加価値なサービスが様々な最先端技術を活用して効率的に提供され、住む人・働く人・訪れる人がより快適に移動できる環境の創出など、新たな技術の活用方策を検討します。
- ・ 名古屋の産業への新しい付加価値の創造につながるような企業の先進技術を活用できる場づくりを検討します。

持続的な発展を支えるシビックプライドの醸成

- ・ 市民・地元企業・民間事業者など多様な主体の参画により、地域のエリアマネジメントを見据えたより良いまちづくりを進める体制づくりに取り組み、シビックプライドを醸成しつつ、地域の価値の維持・発展を図ります。

2-4 将来の土地利用イメージ

基本理念、目標、基本方針を基に、港北エリアでの将来の土地利用イメージについてゾーニング図と基本的な考え方を整理しました。

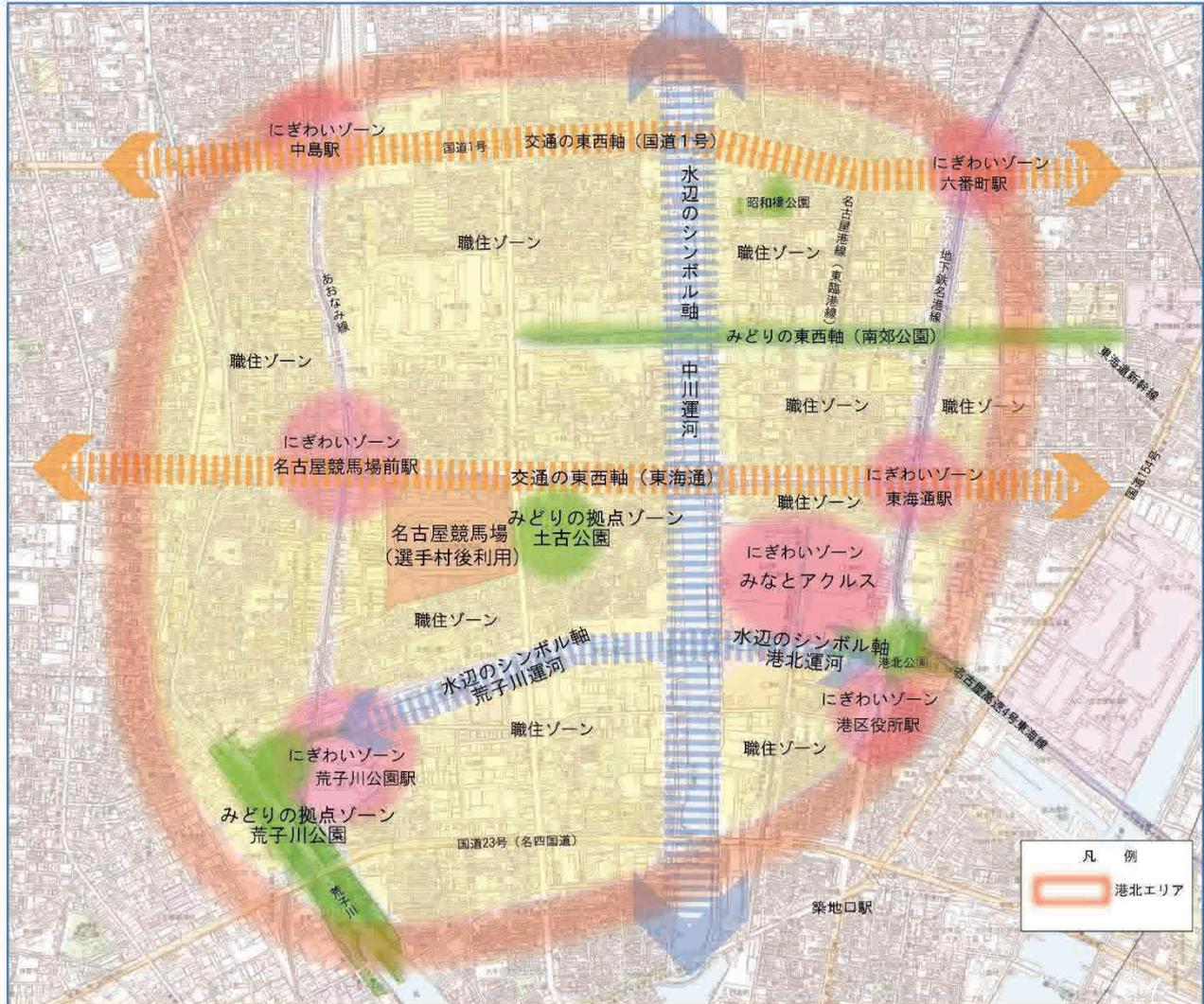


図 港北エリアのまちづくりゾーニングイメージ

●各ゾーン・軸について

■ にぎわいゾーン
○ 駅周辺の商業・業務・地域交流等の活性化を図るゾーン

■ みどりの拠点ゾーン
○ 土古公園、荒子川公園、南郊公園等既存の公園・緑地の活用を図るゾーン

■ 職住ゾーン
○ 職と住が混ざり合う企業と住む人が連携・共生するゾーン

■ 水辺のシンボル軸
○ にぎわいゾーンやみどりの拠点ゾーンをつなぐ水辺を活用した港北エリアのシンボルとなる軸

■ 交通の東西軸
○ にぎわいゾーンやみどりの拠点ゾーンをつなぐ交通の東西軸として拠点間の連携を強化する軸

■ みどりの東西軸
○ 中川運河を中心とした南郊公園でつながるみどりの東西軸

【将来の土地利用イメージの基本的な考え方】

- 地下鉄名港線、あおなみ線の各駅周辺の既成市街地は、商業・業務・地域交流の活性化を図るとともに、子ども・若者、高齢者等の多様な世代が楽しめるようにぎわいづくりを検討します。
- 名古屋競馬場跡地周辺は、選手村後利用事業との連携も考慮しつつ、にぎわい創出や回遊性の向上策を始め、土古公園などの公園・緑地を活用したスポーツ交流や健康増進に資する都市機能を検討します。
- 港北エリア全体の住宅地・工場地は、幅広い世代が暮らしやすく、職と住が連携・共生した安らぎのある住環境を形成するため、防災面にも配慮しつつ安心・安全なまちづくりの推進を検討します。
- 名古屋競馬場跡地、みなとアクルスなどの拠点や鉄道駅が連携できるよう、東海通を始めとした既存の交通基盤を活用した利便性や回遊性の向上策を検討します。
- 中川運河は、港北エリアのシンボル軸となるよう、にぎわい・回遊性の創出に向け、水辺空間の有効活用や運河沿岸の将来的な土地利用転換の促進・誘導、プロムナード整備、景観形成などについて検討します。
- 中川運河の東西支線である港北運河及び荒子川運河を活用し、港北エリアの新たなシンボル軸となるようまちのにぎわい・活性化が図られるよう検討を進めるとともに、荒子川運河周辺にある荒子川公園、あおなみ線などの地域資源との連携を検討します。

第3章 まちづくりの将来展望のイメージ

港北エリアまちづくりの推進にあたっては、既存の交通基盤施設の利便性向上や中川運河などの水辺空間や広い公園などの地域資源の有効活用を図り、これらをこれまで以上に地域資源を際立たせることにより魅力的なまちづくりを進めていきたいと考えています。そのためには、地域の魅力や憩い・賑わいの創出に繋がる施策・事業について、行政と民間がそれぞれの長所を生かして、取り組んでいく必要があると考えています。

その推進にあたっては、港北エリアの地域特性も考慮しつつ、お互いに関係する複数の施策・事業を組み合わせ、戦略的に展開していくことが効率的かつ効果的な手法であると考えられます。その中でも、積極的に検討を進める施策・事業のパッケージを、港北エリアにおける「まちづくりプロジェクトのイメージ」として取りまとめ、その実現に向けては、行政内外の関係者と協議・調整を進め、民間活力の導入も図りながら、その推進に取り組みます。

また、施策の推進にあたっては、令和8年開催予定のアジア競技大会を大きな機会として捉え、港北エリアの中心にある名古屋競馬場跡地でのメイン選手村の運用時、後利用事業完成時やさらにその先を見据え、施策の展開を検討していきます。

本章では、「まちづくりプロジェクトのイメージ」として考えられる施策・事業を例示し、各プロジェクトイメージの目的、検討する手法・手段、期待される効果を示します。

【まちづくりプロジェクトのイメージ（例示）】

- 荒子川運河周辺活性化プロジェクトイメージ
- 東海通回遊性向上プロジェクトイメージ
- 競馬場周辺回遊性向上プロジェクトイメージ
- 中川運河周辺活性化プロジェクトイメージ
- 防災性向上プロジェクトイメージ

※本章における「まちづくりプロジェクトのイメージ」は例示であるため、今後の検討状況により見直しを行う場合があります。

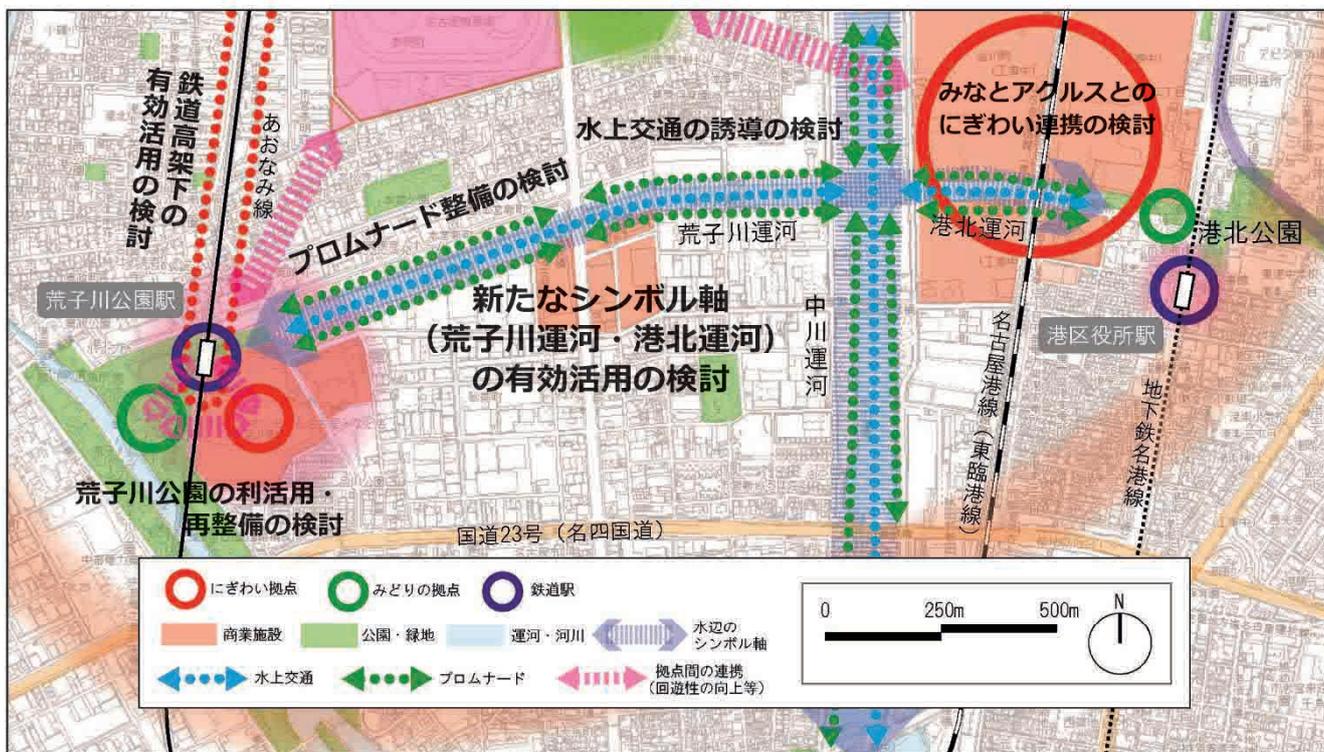
3-1 まちづくりプロジェクトのイメージ

(1) 荒子川運河周辺活性化プロジェクトイメージ

荒子川運河を活用したみなとアクルスとあおなみ線荒子川公園駅付近の連携策などにより荒子川運河周辺の賑わい創出や回遊性向上を図ります。

<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○水辺を活かした賑わい創出や来訪者の呼び込みによる荒子川運河周辺の活性化・賑わいの創出 ○みなとアクルス周辺と荒子川公園駅周辺での拠点や動線の魅力向上による回遊性向上
<p>検討する手法・手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○開発動向を踏まえた、荒子川運河と港北運河を結ぶ水上交通の誘導 ○荒子川運河・港北運河におけるプロムナード整備、ビュースポットの設定 ○荒子川運河周辺における水上スポーツ活性化に向けた環境整備 ○あおなみ線高架下の有効活用（賑わい空間の創出等） ○荒子川公園の利活用・再整備
<p>期待される効果</p>	<p>各施策・事業が運河を中心として連携することにより、荒子川運河が新たなシンボル軸となり、まちのイメージが向上する</p>

【荒子川運河周辺の活用イメージ】



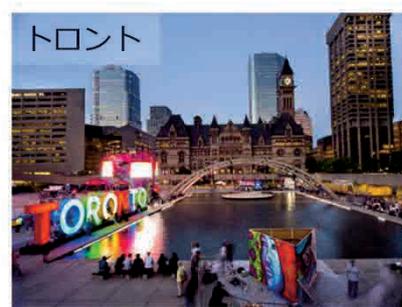
■ 荒子川運河周辺の現況



■ 参考となる他都市等の事例



出典：HORI SUP HP



出典：トロント総合情報サイト



出典：名古屋鉄道(株)資料

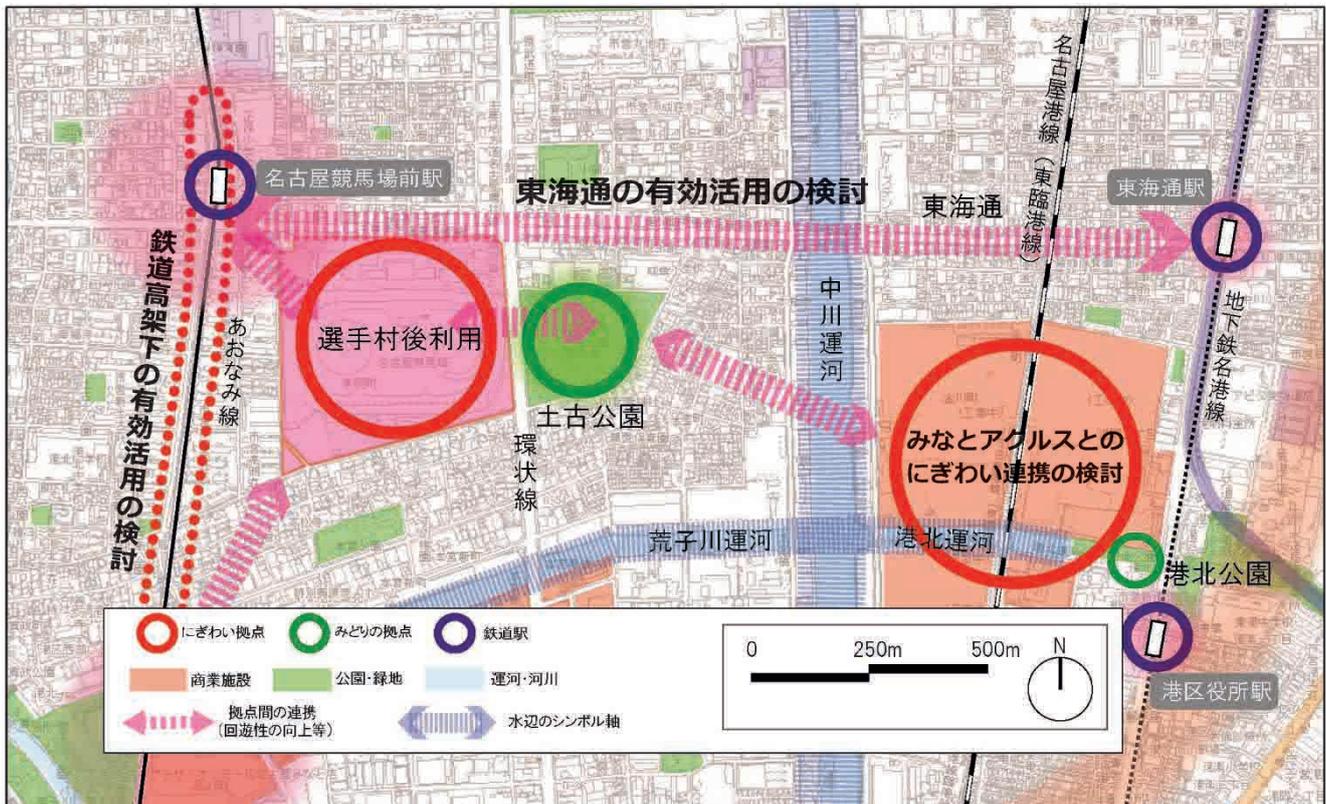


(2) 東海通回遊性向上プロジェクトイメージ

東海通において、地下鉄名港線とあおなみ線との間の東西の公共交通などについて、さらなる有効活用や歩いて楽しめる空間を目指します。

<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市営バス等による名古屋競馬場跡地へのスムーズなアクセス確保による東西移動のしやすさ向上・回遊性向上 ○東海通の回遊性向上に伴う賑わいの創出
<p>検討する手法・手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○東海通での市営バス、地下鉄、あおなみ線等公共交通の連携方策 <ul style="list-style-type: none"> ・交通結節点や拠点間における回遊性向上やわかりやすい案内 ○様々な最先端技術を活用した新たなモビリティサービスによる移動しやすい交通環境の実現 ○自転車を始めとした交通手段の利用方策検討による移動しやすい交通環境の実現
<p>期待される効果</p>	<p>新たなモビリティサービスの実現や、各公共交通機関の連携により東西交通軸の繋がり強化されることにより、東海通を中心としたエリアへの来訪者の期待感を醸成し、まちのイメージが向上する</p>

【東海通周辺の回遊性向上イメージ】



■ 東海通の現況



■ 参考となる他都市等の事例



出典：豊田市 Ha:mo HP



出典：HINOMARU LIMOUSINE（日の丸リムジン）HP

多言語 AI サイネージ
（東京駅）



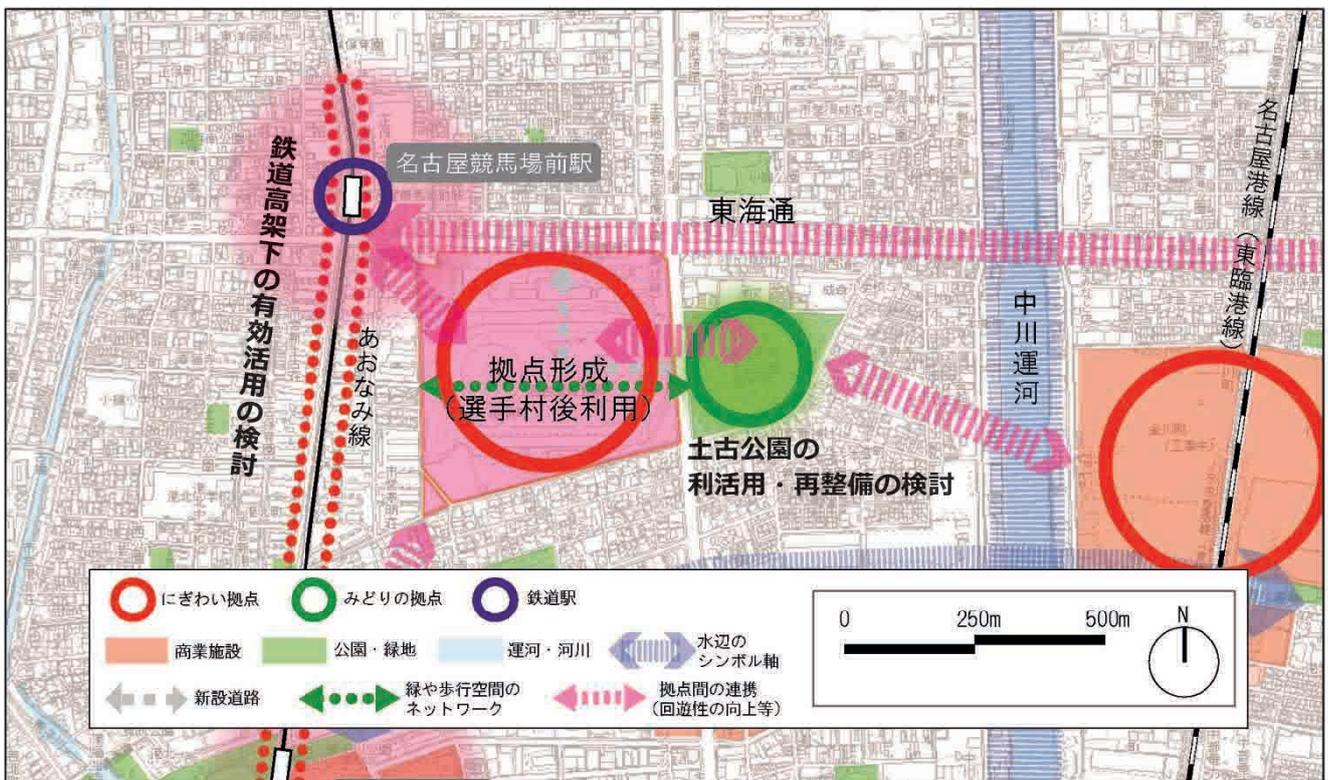
出典：JR 東日本 HP

(3) 競馬場周辺回遊性向上プロジェクトイメージ

令和8年のアジア競技大会のメイン選手村となる名古屋競馬場跡地周辺において、選手村後利用事業と、周辺施設であるあおなみ線名古屋競馬場前駅、土古公園などとの回遊性の向上を図り、賑わいを創出する。

<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○名古屋競馬場前駅と選手村後利用施設との連携強化による回遊性向上 ○名古屋競馬場前駅周辺の賑わい創出、回遊性向上 ○土古公園を活用した賑わい創出、回遊性の向上 ○緑に親しめる空間を創出 ○新技術による高齢者等交通弱者の移動の円滑化や促進
<p>検討する 手法・手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○土古公園の利活用・再整備 ○あおなみ線高架下の有効活用（賑わい空間の創出等） ○様々な最先端技術を活用した新たなモビリティサービスによる移動しやすい交通環境の実現
<p>期待される効果</p>	<p>選手村後利用施設を核として、新たなモビリティの実現などにより、名古屋競馬場前駅や土古公園と連携し、来訪者を呼び込み地元の人も憩うことができるような港北エリアの新たな拠点となる</p>

【競馬場周辺の回遊性向上イメージ】



■名古屋競馬場周辺の現況

あおなみ線 名古屋競馬場前駅



土古公園



土古公園



あおなみ線 高架下



名古屋競馬場



名古屋競馬場周辺の航空写真



■参考となる他都市等の事例

鉄道高架下回遊歩行空間「ののみち」
(JR 中央線 武蔵境駅～国立駅)



出典：小金井市観光まちおこし協会 HP

大阪天王寺公園エントランス
エリア“てんしば”



出典：公益財団法人日本デザイン振興会 HP

(4) 中川運河周辺活性化プロジェクトイメージ

中川運河の水面だけでなく周辺を含めて、賑わい創出や回遊性向上等を図ります。

目的	○水辺を活かした賑わい創出・回遊性向上、産業空間としての価値向上
検討する 手法・手段	○中川運河沿岸への賑わい施設等の立地誘導 ○プロムナード整備、ビュースポットの設定 ○運河周辺の住民・工場への運河等を活用したまちづくりの啓発活動
期待される効果	中川運河を中心としたエリアのブランディングやイメージ向上が図られ、来訪者呼び込みや地元住民・企業の中川運河への愛着が醸成される

■ 中川運河の現況

中川口緑地



いろは橋



東海橋より北方向



ドラゴンボートレース大会



出典：伊勢湾フォーラム HP

■ 参考となる他都市等の事例

水上交通とモニュメント（富岩運河）



出典：富岩水上ライン | 運河クルーズ HP

緑地と商業施設（富岩運河）



出典：富岩水上ライン | 運河クルーズ HP

水辺の商業施設（TYハーバー）



出典：TYSONS&COMPANY HP

プロムナード及び水上交通（道頓堀）



出典：とんぼりリバークルーズ HP

(5) 防災性向上プロジェクトイメージ

エリア周辺の治水能力の向上を図るなどにより、防災性を高め、エリアのイメージを向上させ、安心・安全なまちづくりに寄与します。また、エリアの北東に位置する昭和橋公園は、防災公園として拡張整備を進めています。

目的	<ul style="list-style-type: none"> ○エリアの防災力の向上 ○豪雨時の浸水リスク低減
検討する 手法・手段	<ul style="list-style-type: none"> ○治水安全度向上に向けた検討 <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋競馬場跡地において、豪雨時の周辺の浸水被害状況を踏まえて、地域の状況に応じた雨水貯留施設を設置 ・既存施設を活用した治水施設のネットワーク化や連続排水の検討 ○防災公園の整備 ○エリアマネジメントによる地域の防災意識の向上
期待される効果	<p>防災性が向上することにより地域住民の安心感が高まるとともに、エリアのイメージが向上し、居住促進やまちづくりの展開がしやすくなる</p>

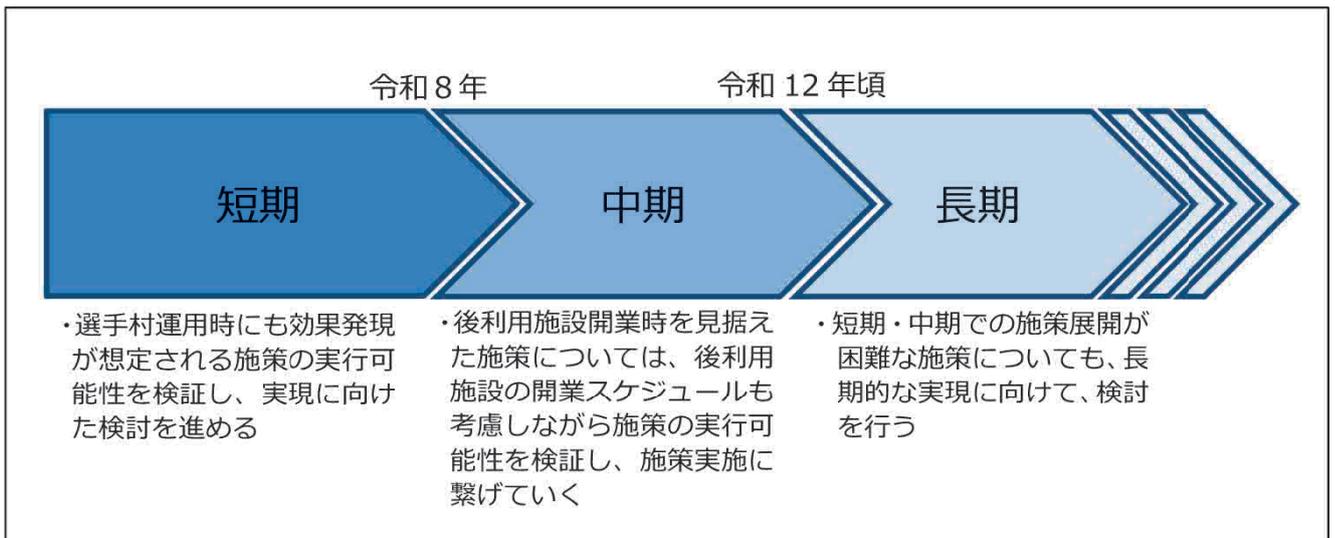
■ 港北エリア内の現況



3-2 施策の展開イメージ

- 3-1に示した各プロジェクトのイメージは、令和8年（2026年）にアジア競技大会の選手村が運用され、その後に予定される後利用施設開業時（まちびらき）を大きな機会・節目として捉え、実現に向けた検討を進め、施策の実行可能性を検証し、施策実施に繋げていきます。
- アジア競技大会の選手村運用時にも効果の発現が想定される施策の実行可能性を検証し、選手村運用時までの実現に向けた検討を進めます。
- 選手村運用時（令和8年）までを短期、選手村運用後に予定されている後利用施設開業時（令和9年～令和12年頃）までを中期、それ以降を長期として、施策の展開イメージを整理しました。

【施策の展開イメージ図】



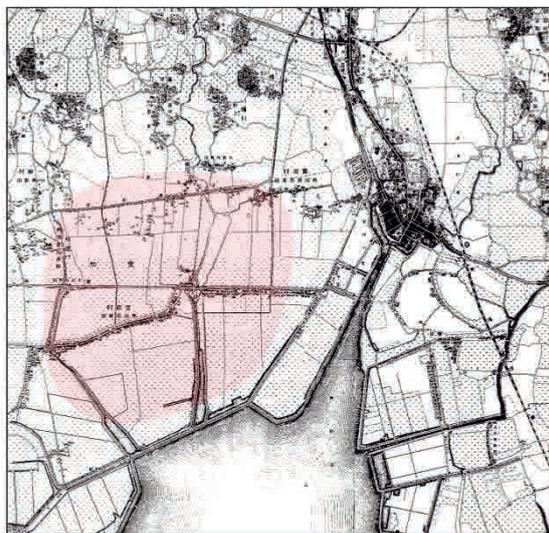
3-3 今後の展開に向けて

本将来ビジョンの策定後は、選手村後利用事業を始めとした周辺の開発動向を見据えながら、施策・事業の具体化に向けた検討を進め、「港北エリアまちづくり計画（仮称）」として取りまとめていく考えです。

參考資料

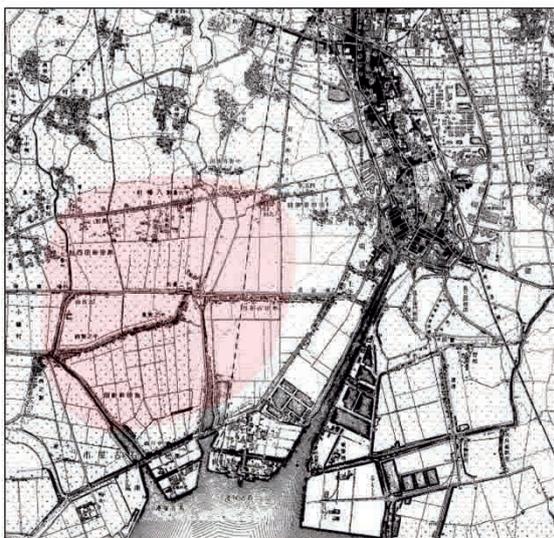
1 地域の歴史変遷

港北エリア及び周辺地域の年代別地図と歴史変遷の概要を示します。



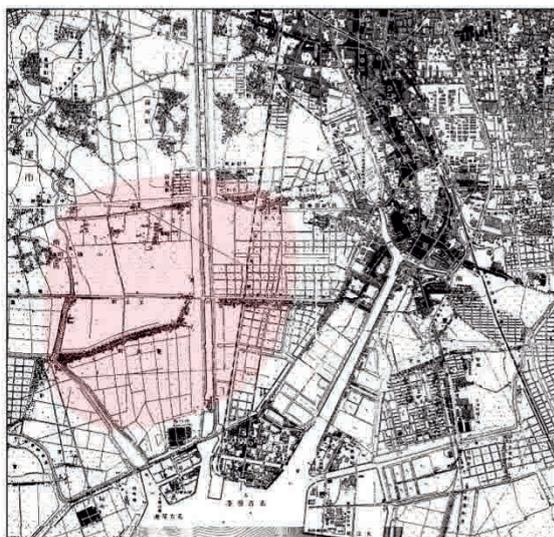
■明治 24 年

東海道鉄道の西側には又兵衛新田・源兵衛新田などの干拓新田が見られ、さらに大規模な新田は図の西部の熱田前新田が開発されています。



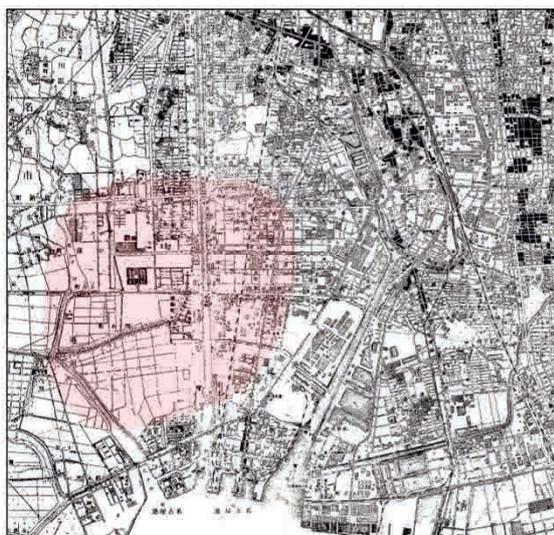
■大正 9 年

築地には名古屋駅方面から臨港鉄道引込線が敷設され、市電もすでに通じています。市電は東築地方面に敷かれ、そこには貯木場や工場もいくつか立地して、築地西部の肥料会社とともに臨港地帯らしい趣が見え始めています。しかしすぐ背後には依然として広大な干拓新田が広がっています。



■昭和 7 年

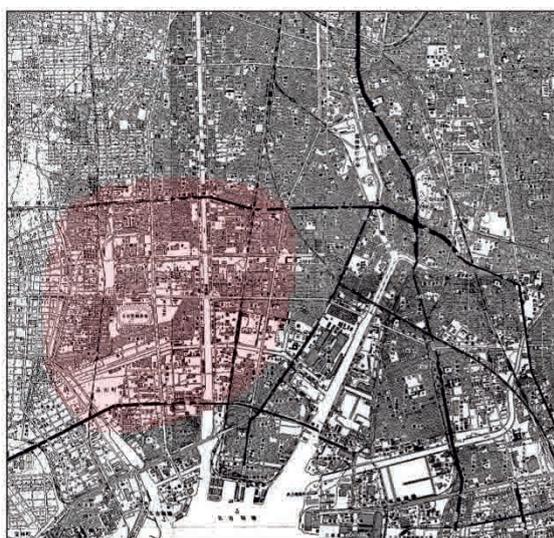
築地にはのちに 3 本の埠頭ができますが、そのうちの西埠頭がすでに姿を現しています。また、その西側の中川運河も形を整えつつあります。



■昭和 22 年

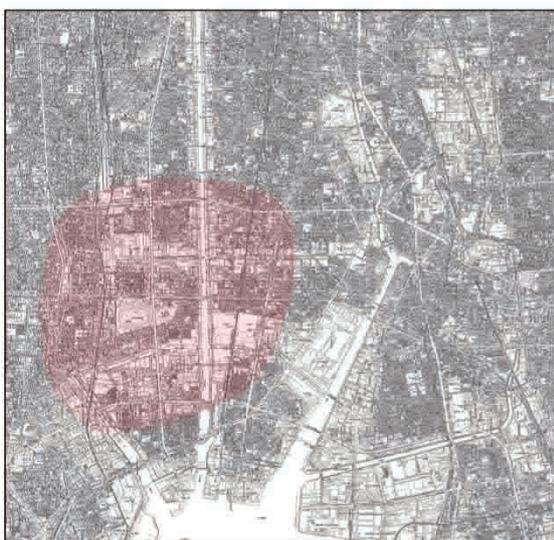
市街地の拡大にともなって名古屋市と周辺町村の合併問題が生じ、千種・御器所・中・愛知・常磐・八幡・荒子の各町村は大正 10 年（1921）に名古屋市に編入されました。

中川運河は貨物工場笹島および堀川筋の工場・倉庫群と名古屋港を結ぶ役割をもつもので、昭和 7 年（1932）に開通しました。



■昭和 43 年

東邦瓦斯・愛知機械工業（もとの愛知起業）・日本ハードボード・八幡製鉄（現、新日本製鉄）などの大工場が集積しました。名古屋競馬場が開業し、競馬場西側の市営土古町住宅・稲永住宅などが整備されています。



■平成 27 年

東邦瓦斯の港明工場の跡地は、「みなとアクルス」の名称で環境と省エネの取り組みによる先進的なまちづくりをコンセプトとしたスマートタウンが開発されています。本市の「低炭素モデル地区事業」の認定第 1 号となりました。

図出典：日本図誌大系（中部）を加工

2 上位・関連計画

港北エリアに関連する名古屋市の上位・関連計画は以下のとおりです。

(1) 名古屋市総合計画 2023 – 世界に冠たる「NAGOYA」へ – (策定：令和元年度)

第20回アジア競技大会の開催とリニア中央新幹線の開業を重要な柱と位置づけ、長期的展望に立った上で、本市のめざす都市像を描くとともに、その都市像の実現に向けて取り組む施策等を明示することにより、市政を総合的かつ計画的に運営していくことを目的に策定し、この中において、港北エリアにおけるまちづくりの推進が掲げられています。

■まちづくりの方針

新しい時代にふさわしい豊かな未来を創る！世界に冠たる「NAGOYA」へ

■めざす都市像

- 都市像1 人権が尊重され、誰もがいきいきと暮らし活躍できるまち
- 都市像2 安心して子育てができ、子どもや若者が豊かに育つまち
- 都市像3 人が支え合い、災害に強く安心・安全に暮らせるまち
- 都市像4 快適な都市環境と自然が調和したまち
- 都市像5 魅力と活力にあふれ、世界から人や企業をひきつける、開かれたまち

■「港北エリアまちづくり」について (抜粋)

第3章 「長期的展望に立ったまちづくり」 - 「4 重点戦略」

- 「戦略4 強い経済力を基盤に、にぎわいと新たな価値を創出し、環境と調和した都市機能を強化します」

○港北エリアにおけるまちづくりの推進

- ・選手村整備と後利用を見据えた将来ビジョンの策定
- ・港北エリアまちづくりの推進

第4章 「第20回アジア競技大会の開催とリニア中央新幹線の開業」

- 「1 第20回アジア競技大会を契機としたまちづくりビジョン」 - 「(2)基本目標」
- 「基本目標4 大会で、活用した都市基盤、先端技術、危機管理体制などが、大会モデルとして未来に引き継がれることで、絶え間なくイノベーションし続ける、持続可能な都市の実現」

新しいモデルとしての選手村の構築と大会後のまちづくり

成熟都市である本市で開催するアジア競技大会の選手村の整備・運営の新たなモデルを構築するとともに、この機会を契機に、名古屋競馬場跡地や周辺地区のにぎわいと新たな地域ブランドの形成に向け、社会の変化に柔軟に対応し、災害に強いしなやかなまちづくりを進めます。

第5章「めざす都市像の実現に向けた施策・事業」

- 「施策 26 良好な都市基盤が整った生活しやすい市街地を形成します」

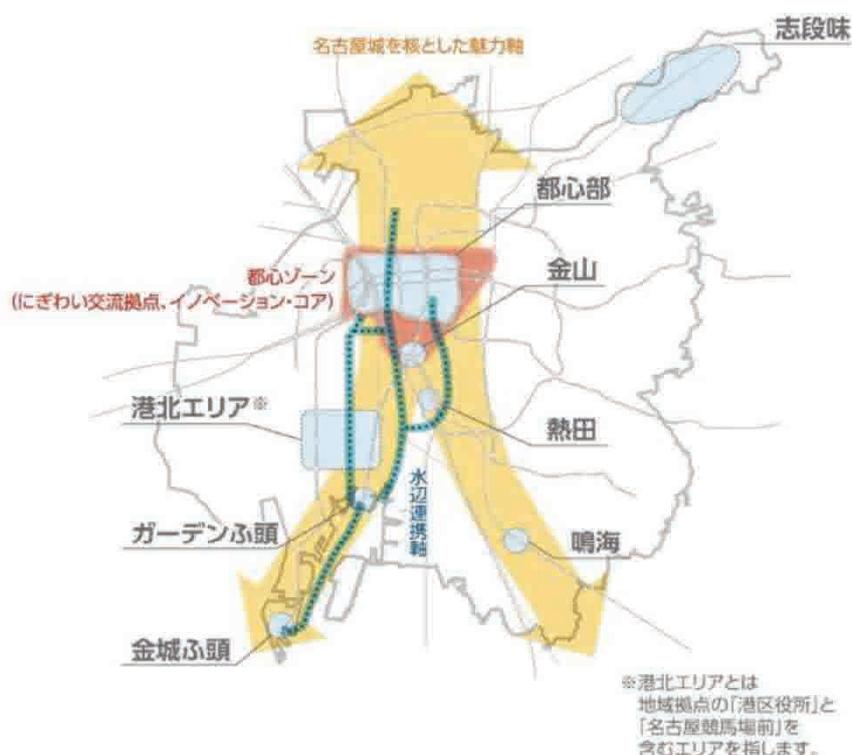
港北エリアでは、名古屋競馬場跡地におけるアジア競技大会選手村整備を契機とするまちづくりに取り組み、地域の課題解決、魅力向上に資する新たな価値・機能を創出する必要があります。

事業名	事業概要	現況	計画目標
港北エリアにおけるまちづくりの推進	名古屋競馬場跡地におけるアジア競技大会選手村の整備とその後の利用を見据え、「港北エリアのまちづくり将来ビジョン」を取りまとめ、まちづくりを推進	港北エリアにおけるまちづくりの方向性の検討	「港北エリアのまちづくり将来ビジョン」の策定 「港北エリアのまちづくり将来ビジョン」に基づく取り組みの推進

(2) 名古屋市都市計画マスタープラン2030（策定：令和2年度）

本市では、平成23（2011）年12月に都市計画マスタープランを策定し、集約連携型都市構造の実現を掲げました。都市計画マスタープラン2030では、さらに具体的なビジョンとして、都心から郊外まで、市内の各ゾーンの特性を活かした将来イメージを打ち出し、多様性や包摂性を備えた将来都市構造を掲げることで、具体的な都市空間のプラットフォームとしての役割を果たすものとして取りまとめています。

将来都市構造や各ゾーンの将来イメージを実現するために、特に重点的にまちづくりを展開する地域として、都心部、金山、熱田、港北エリア、ガーデンふ頭、金城ふ頭、鳴海、志段味が示されています。その中でも、港北エリアは、名古屋城を核とした魅力軸及び水辺連携軸に位置しており、さらなる交流の活性化をはかるため、魅力向上や資源間の連携が必要な地域の一つとされています。



【重点的にまちづくりを展開する地域】

港北エリア

アジア競技大会の選手村整備を契機に、中川運河、公園、交通基盤などの地域資源を際立たせることにより、にぎわいと新たな地域ブランドの形成に向けたまちづくりを推進します。

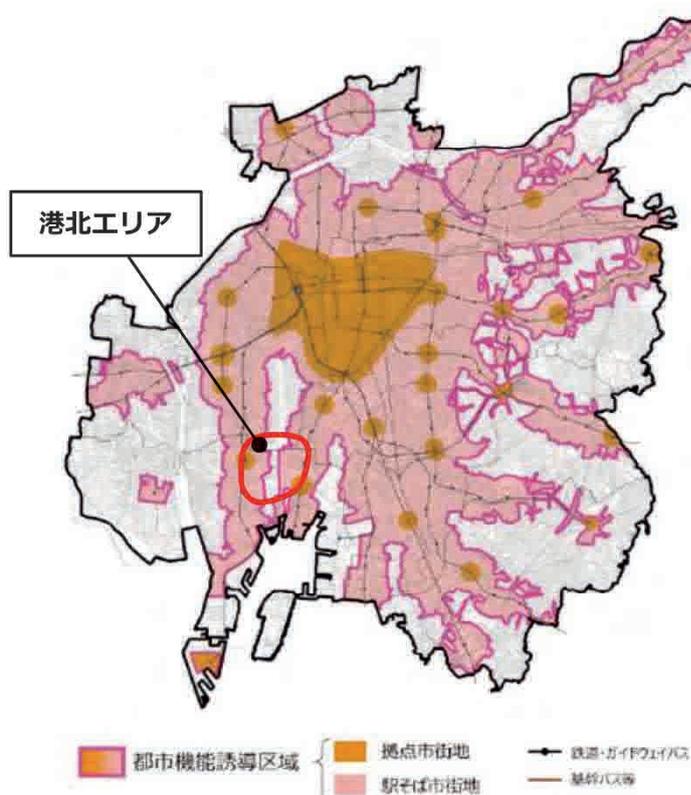
- 名古屋競馬場跡地での質の高い民間開発による地域イメージの転換
- 交通利便性・回遊性の向上、水・緑と共生した生活環境の形成
- 次世代産業の振興、世界に開かれたビジネス環境の形成
- 職住近接によるゆとりある生活の実現、地域ぐるみの防災対策の実践

(3) なごや集約連携型まちづくりプラン（策定：平成 29 年度）

本市では、都市計画マスタープランにおいて集約連携型都市構造をめざすべき都市構造に位置づけ、取り組みをすすめてきました。また、国においてもコンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方に基づいて都市機能と居住の立地誘導をはかる立地適正化計画制度が創設されました。

このような状況をふまえ、本市における集約連携型都市構造の実現に向けた取り組みを加速化するために、都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画として、「なごや集約連携型まちづくりプラン」を取りまとめました。

都市再生特別措置法に基づく都市機能誘導区域は下図のとおり設定し、港北エリアは拠点市街地及び駅そば市街地を含んだ区域となっています。



【都市機能誘導区域】

都市機能誘導の考え方

- 拠点市街地（地域拠点）
 - ・ 周辺地域の市民利用が想定される地域の拠点施設の重点的な誘導
 - ・ まちの魅力や利便性の向上に資する日常生活施設の充実
- 駅そば市街地
 - ・ 周辺地域の市民利用が想定される地域の拠点施設の誘導
 - ・ まちの魅力や利便性の向上に資する日常生活施設の充実

(4) 中川運河再生計画（策定：平成 24 年度／名古屋市・名古屋港管理組合）

中川運河の歴史と役割を尊重しつつ、新たに求められる価値や果たすべき役割を踏まえ、概ね 20 年先を見据えた再生構想と、概ね 10 年間の取り組み内容を示した計画です。港北エリアは、モノづくり産業ゾーン、レクリエーションゾーンに位置づけられています。



モノづくり産業ゾーンの再生イメージ



レクリエーションゾーンの再生イメージ

■モノづくり産業ゾーン

○港湾・物流軸として名古屋の産業・経済を支えてきた運河の歴史を継承しながら、モノづくりの未来を支える産業との融合を図ることにより、産業空間としての価値が一層高まるような「モノづくりを支えるキャナルストリート」の形成をめざします。

【再生イメージ】

- 沿岸用地では、再開発用地を活用することにより、従来の港湾・物流産業に加え、モノづくりの未来を支える産業の立地が進んでいます。
- 緑地・プロムナードの設置、沿岸用地内の緑化の推進等により、魅力的で働きやすい環境となっています。

■レクリエーションゾーン

○名古屋港漕艇センターを中心とする水上スポーツのさらなる活性化や、にぎわいのある名古屋港ガーデンふ頭との連携、周辺の緑地・公園との回遊性向上などにより、緑豊かな水辺で人びとが気軽に交流を楽しめるような「水と緑のレクリエーションフィールド」の形成をめざします。

【再生イメージ】

- プロムナードの設置によって、周辺の公園・緑地との回遊性が高まり、多くの市民が気軽にレクリエーションを楽しんでいます。
- 水上スポーツの関連施設の拡充や活動エリアの拡大が図られ、ますます水上スポーツが盛んに行われています。
- 中川口通船門等の耐震性・耐波性の強化や、老朽化した中川口ポンプ所の更新など、運河の防災機能の強化が図られています。

(5) 2026 アジア競技大会 NAGOYA ビジョン (策定：令和元年度)

本ビジョンは、アジア競技大会終了後の2030年頃を見据え、大会の開催を契機として本市がめざすまちの姿を明らかにするために策定しました。選手村の整備及び跡地を含めた港北エリアのまちづくりの推進が掲げられています。

■新しいモデルとしての選手村の構築と大会後のまちづくり

成熟都市である本市で開催するアジア競技大会の選手村の整備・運営の新たなモデルを構築するとともに、この機会を契機に、名古屋競馬場跡地や周辺地区のにぎわいと新たな地域ブランドの形成に向け、社会の変化に柔軟に対応し、災害に強いしなやかなまちづくりを進めます。

■主な取組み

選手村の整備及び跡地を含めた港北エリアのまちづくりの推進

(第20回アジア競技大会選手村の整備及び大会後の跡地のまちづくりの推進、港北エリアにおけるまちづくりの推進)

- ・選手、役員が安心・安全・快適に滞在できる生活環境を提供するため、名古屋競馬場跡地に整備するメイン選手村の計画、整備を検討・推進します。
- ・また、将来を見据えたまちづくりが重要であるため、跡地や公園など既存のインフラの活用を含めた港北エリアのあり方について検討・推進します。



選手村予定地及び周辺の概況

【第18回アジア競技大会の選手村】



選手団の入村式



選手村のダイニングホール

(6) 第20回アジア競技大会選手村後利用基本構想（策定：令和元年度）

令和8（2026）年に、愛知県及び名古屋市において第20回アジア競技大会を開催することが決定され、名古屋競馬場の敷地をアジア競技大会のメイン選手村として利用することが予定されています。

メイン選手村の計画・整備の検討は、大会時の選手村を計画するだけでなく、大会後もレガシー（遺産）として有効活用されるよう、大会を契機としたまちづくりも合わせて進めることが重要であり、大会後のまちづくりという各段階を踏まえ長期的な視点に立ち事業を進めていく必要があります。本構想は、このような背景を踏まえ、アジア競技大会開催後の令和12（2030）年頃を見据え、将来のまちづくりの方向性を示すために、愛知県及び名古屋市が策定するものです。

■ 開発コンセプト

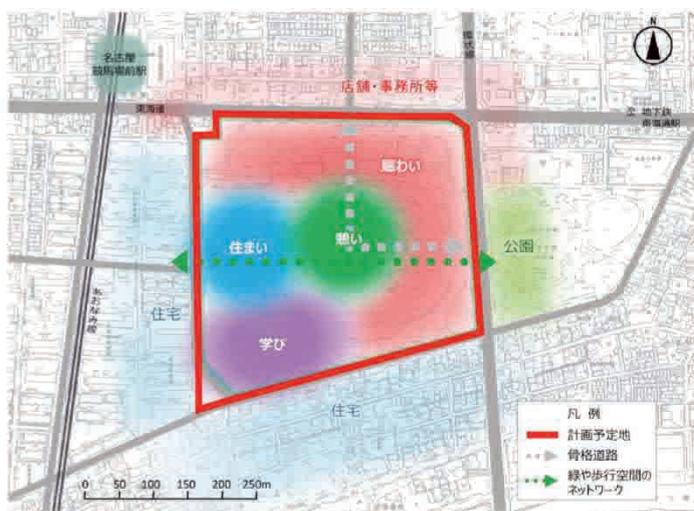
安心と交流を生み出す次世代拠点
 ～ 新しいライフスタイルがはじまる、スマートビレッジ ～

■ 目指すべきまちの姿（5つの夢）

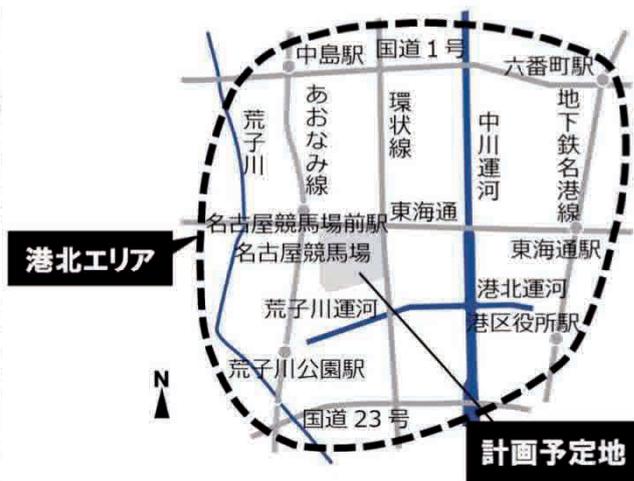
- ・ GO ACTIVE スポーツにより健康に暮らし、元気になるまち
- ・ GO ASIA 多様な人々が国内外から集い、グローバルに成長できるまち
- ・ GO GREEN 憩いやつどいの場があり、安全・安心でエコな暮らしが実現するまち
- ・ GO FUN にぎわいがうまれ都市の魅力が高まり、国内外に誇れる楽しいまち
- ・ GO FUTURE 未来を身近に感じ、イノベーションが創出されるまち

■ 事業化に向けて

- ・ 計画予定地周辺の幹線道路、あおなみ線、中川運河などの地域資源を有する港北エリアのまちづくりにおけるハード・ソフト面の取組と連携し、地域の課題解決、魅力向上に資する新たな価値・機能の創出を図ります。



土地利用イメージ



港北エリア

(7) SDGs (持続可能な開発目標)

平成 27 (2015) 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための国際目標である SDGs の達成に向けた取り組みが国レベルで進行しています。

また本市は、令和元 (2019) 年 7 月、SDGs の理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市として、国から「SDGs 未来都市」に選定されました。



【持続可能な開発目標(SDGs)】

(8) グリーンインフラ

近年、都市が抱える様々な課題を解決するため、ハード・ソフト両面において、自然環境の持つ多様な機能を、持続可能で魅力的なまちづくりに活用する“グリーンインフラ”の考え方が注目されています。

グリーンインフラの“グリーン”は、緑、植物という意味のみならず、緑・水・土・生物などの自然環境が持つ自律的回復力をはじめとする多面的な効果を積極的に活かして、環境と共生した基盤整備や土地利用などを進めるという意味を持ち、“インフラ”は、従来の道路や橋などの構造物だけを指すのではなく、その地域社会の活動を下支えするソフトの取り組みも含まれます。

例えば、屋上緑化や壁面緑化など建築物の緑化でグリーンインフラの取り組みを推進することにより、魅力的な緑などの景観をつくり、市民のみなさんの健康や幸福度、生産性及び創造性の向上につながる事が期待されます。

また、グリーンインフラは、ヒートアイランド現象対策や雨水流出抑制の点でも有効に機能します。

さらに、官民が連携して緑豊かな都市を形成することにより、クリエイティブな人材、企業及び投資が呼び込まれ、都市のエリア価値が向上する効果も期待されます。これからは、このような緑などが有するグリーンインフラとしての多面的な効果を発揮していくことが必要だと考えています。



グローバルゲート(ささしまライブ24地区)



出典)横浜市資料

【グリーンインフラの事例】

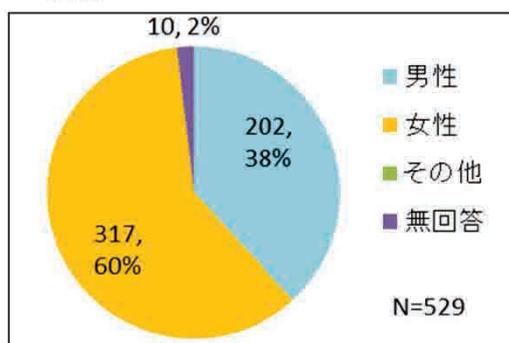
3 アンケート調査結果

本アンケートは、港北エリアまちづくり将来展望の策定に向けた検討を行うため、地域住民や来訪者の方から意見を伺い、検討の参考にするため調査を実施しました。

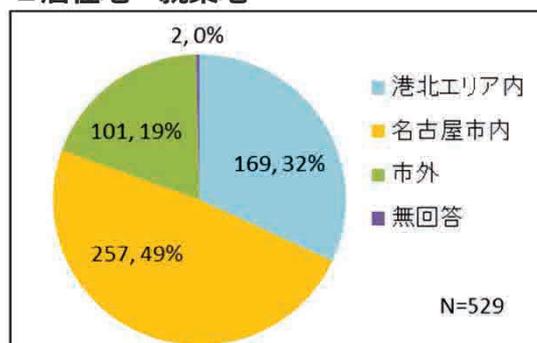
【アンケート調査の実施概要】

実施日	休日:令和元年 11月 17日(日)9:00~19:00	回答数: 289人
	平日:令和元年 11月 19日(火)9:00~19:00	回答数: 240人
調査対象	地域住民及び来訪者	合計: 529人
実施場所	鉄道駅: 地下鉄名港線 港区役所駅、あおなみ線 名古屋競馬場前駅、荒子川公園駅	
	商業施設: ららぽーと名古屋みなとアクルス、イオンモール名古屋みなと ピアゴ ラ フーズコア正保店、タチヤみなと店	
実施方法	アンケート調査票を用いた街頭聞き取りアンケート 付箋紙を用いたボードアンケート	

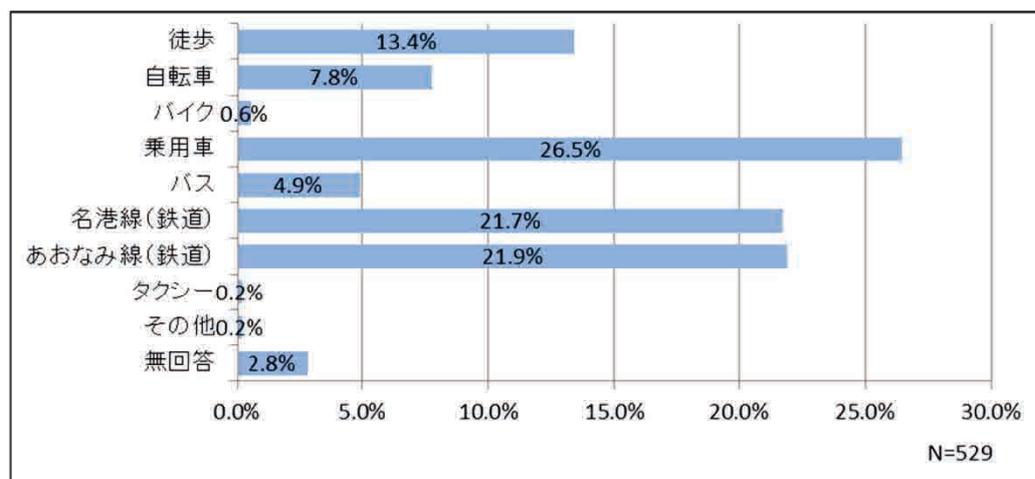
■ 性別



■ 居住地・就業地

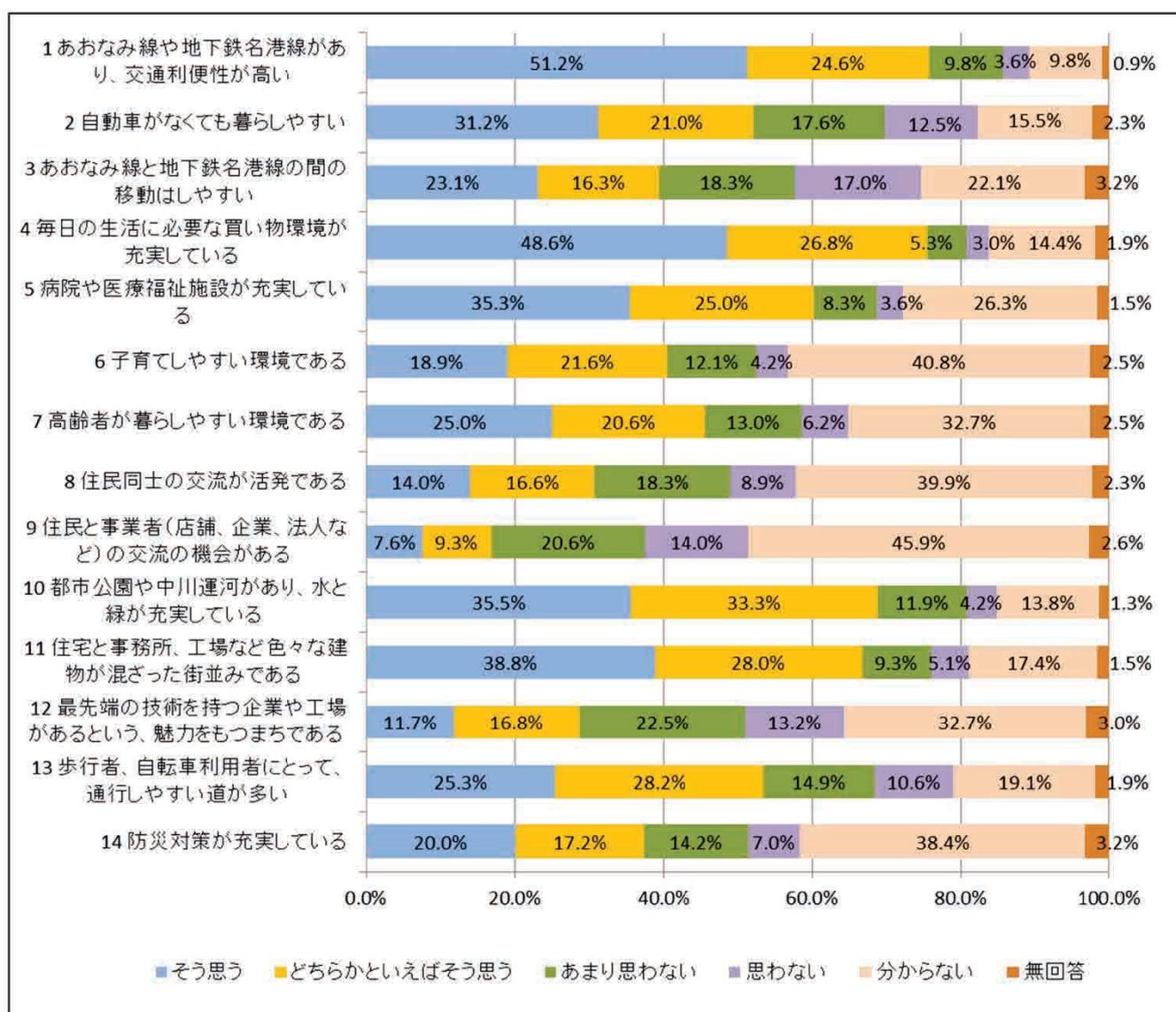


■ 主な交通手段



■ 港北エリアの現状について

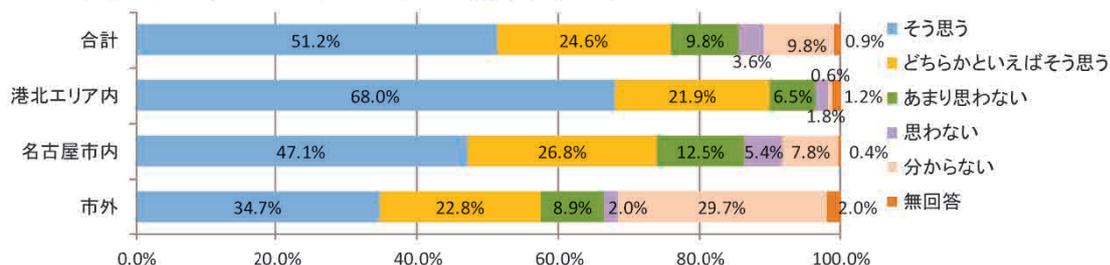
- ・ 交通利便性の高さ、買い物施設や医療福祉施設の充実、水と緑の充実、住工混在の街並みについては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が多くなっています。
- ・ 一方、子育てしやすい環境、住民同士の交流、住民と事業者との交流の機会、最先端技術を持つ企業等の立地については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が少なくなっています。



(交通関連のアンケート項目に対する回答者の居住地・就業地との関連性)

- ・前ページの港北エリアの現状についての回答のうち、交通に関係する回答について居住地・就業地別の分析をしました。
- ・交通に関係する回答の全体的に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、港北エリア内は多く、エリア外の名古屋市内は少ない傾向がみられます。
- ・市外は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が少なく、「分からない」が多くなっています。

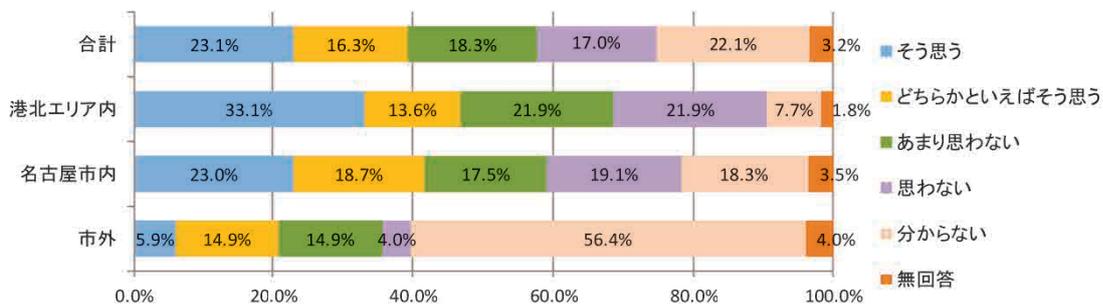
1. あおなみ線や地下鉄名港線があり、交通利便性は高い



2. 自動車がなくとも暮らしやすい



3. あおなみ線と地下鉄名港線間の移動はしやすい



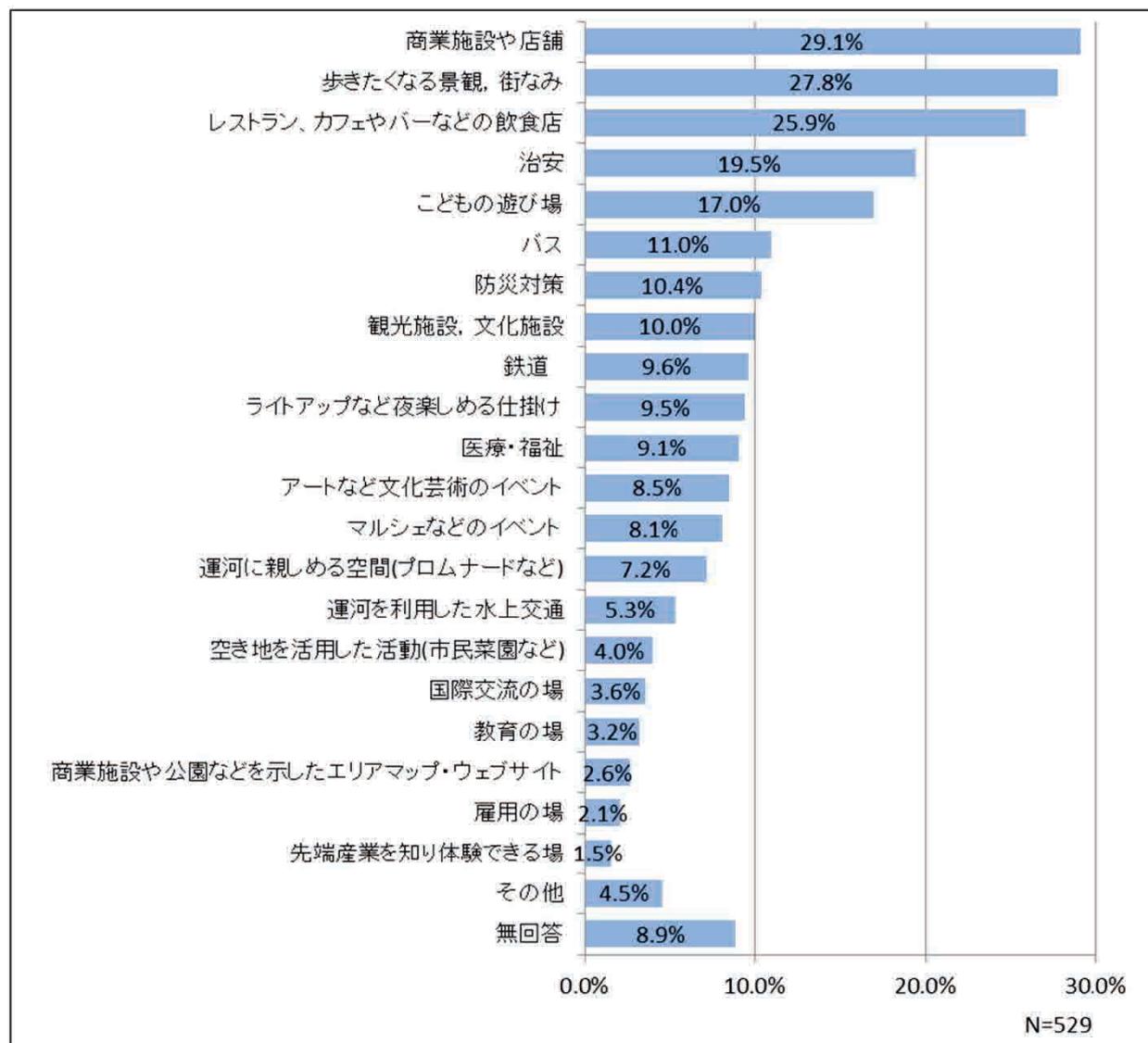
1.3. 歩行者、自転車利用者にとって、通行しやすい道が多い



■ 今後、港北エリアで暮らし、または来街するために充実してほしいことについて

(3つまで回答可)

- ・最も回答数が多かった項目は「商業施設や店舗」29.1%、次いで「歩きたくなる景観や街なみ」27.8%、「レストラン、カフェやバーなどの飲食店」25.9%となっています。



4 シンポジウム開催状況

本シンポジウムは、港北エリアの魅力や課題を聴取するとともに、アジア競技大会を契機とした中川運河や名古屋競馬場周辺の新たな魅力・にぎわいづくりについて考えることを目的として実施しました。

【シンポジウム開催の概要】

名 称	港北エリアまちづくりシンポジウム		
日 時	令和2年(2020)1月26日(日) 13:30~15:30	参加者数	約70人
会 場	ららぽーと名古屋みなとアクルス 3階ららスタジオ		
登壇者 (敬称略)	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木明子(プロフィギアスケーター、元オリンピック日本代表、邦和スポーツランド所属) ・渡邊一晃(港区小中学校PTA協議会会長、中川小学校PTA会長、誓成寺誓成保育園園長) ・松本幸正(名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科 教授) ・坂本敏彦(名古屋市住宅都市局都市整備部まちづくり企画課 課長) 司会：福田ちづる(「さらさらサラダ」キャスター)		
プログラム	①あいさつ・趣旨説明、②登壇者の紹介、③港北エリアの魅力紹介 ④港北エリアの未来の姿、⑤港北エリアのまちづくりについて		

【シンポジウムにおける主な意見】

■ 港北エリアの魅力紹介

【渡邊一晃氏】

- ・港北エリアの魅力は毎年秋に行われている「稲荷社の例大祭」がある。3基の山車神楽が、この地域に伝わる神楽太鼓(尾張新次郎太鼓)を叩き、町内を巡行する。山車神楽は大人が引くが、子供獅子もある。普段静かな町内であるが、地域全体が盛り上がる。

【鈴木明子氏】

- ・祭りを通じて子供からお年寄りまで地域が繋がっているのを目の当たりにする。祭りが残り、続いていくことが港北エリアのまちづくりにも繋がると思う。
- ・ここ数年でららぽーと周辺の人々の流れが大きく変わった。ららぽーとができ、家族連れが増え、明るくなった。

【坂本敏彦】

- ・港北エリアの最大の魅力は水辺である。名古屋は横浜、神戸といった港町だけではなく、東京や他の街と比べてもウォーターフロントの魅力が乏しい。ガーデンふ頭の水族館、金城ふ頭のレゴランドはあるが、もっと人々が暮らしているところの近くにウォーターフロントの街をつくっていきたい。中川運河、水辺に面した魅力的な空間をこのエリアにつくりたい。

【松本幸正氏】

- ・港北エリアは運河、緑が資源である。これを活かしたまちづくりを進めて欲しい。名古屋市では現在、アジア競技大会選手村後利用基本構想を策定中であり、大会後もレガジーとして有効活用されるようまちづくりも併せて検討している。これを契機に港北エリア全体を元気にしてほしい。都市の繁栄には、本物の資源が必要。祭りもそのひとつ。中小のものづくり企業もたくさんある。それらを活かした港北エリアの姿が描けるはず。

■ 港北エリアの未来の姿

【渡邊一晃氏】

- ・地域住民にとって中川運河は、身近すぎて魅力としての認識が低い、今後は他には無い魅力として活かしていきたいと思う。
- ・中川運河を使って釣りやボート、グランピングなどの様々な自然体験ができると地域住民だけでなく、地域外からも足を運んでもらえるきっかけになると思う。

【鈴木明子氏】

- ・カナダのトロントはスポーツの参加意識が強い。水辺や公園など積極的に体を動かせる場所が多くある。週末も家族で体を動かす人が多い。スポーツをイベントとして楽しめる環境、写真を撮りたくなるような外に出て集まれる場所がある。
- ・バンクーバーも同じく、町中が一体となってスポーツチームを応援している。スポーツという切り口を通して海外の人達との交流が図れるのではないかと感じた。バンクーバーの選手村は跡地をそのまま街として利用する計画で、マンションや川、今後商業施設になるような箇所もあった。大会が終わったら取り壊す簡易的なものではなく、継続的に利用できるものができるとうい。

【坂本敏彦】

- ・東海通は名古屋の東西軸であり、新技術を入れて使い易くできないか考えている。このエリアの魅力資源を繋いでいくような回遊性をつくっていけるとよい。
- ・水辺の資源をどう活かして新しいイメージをつくっていけるか。中川運河で行っているキャナルアート、水辺を活用したアートの取り組みも行うと新しい魅力になる。

【松本幸正氏】

- ・今後この地区にとって大事なことは、運河側を向くこと。ロンドンのテムズ川東岸は廃れていたが、人の流れを変えることで賑わいを生んだ。オランダのデルフトでは運河に船を浮かべてレストランとして食事を楽しんでいる。水辺の夜の景色をつくることも大事。
- ・港北の将来を考えた時、10年20年先のことを見据えることが大切。

■ 港北エリアのまちづくりについて

【渡邊一晃氏】

- ・地元の希望、要望の声をあげていくことが重要だと思う。今の子どもたちが成人になり外に出たときに地元のまちを自慢できるように。一度外に出ても地元に戻って、地元に住みたい、家庭を持ちたい、そんな希望を今の子ども達に与えてあげられれば。

【鈴木明子氏】

- ・家庭だけでなく、地域で人は育つものだと思う。変わってきているこのまちが、勝手に変わっていくのを眺めているのではなく、今のみなさんの意見を言うことが大事。自分のまちに興味を持って、好きになって欲しい、自慢できるまちにして欲しい。

【坂本敏彦】

- ・このエリアには名古屋になかなか無い空間がある、水辺や緑。特に中川運河は幅が90mあり、他の運河と比べてかなり広い。そこを活かした街並みで、魅力的な空間ができる。栄や名駅ではなく、ゆとりをもって潤いを持って暮らせる場所として、水辺、公園、スポーツ施設、商業施設もあるこのエリア、名古屋の中には無かったまちが生まれてくると思う。

【松本幸正氏】

- ・この地区は緑も多く、荒子川公園でランニング、中川運河沿いを散歩など各地で健康活動ができる、これを最大限活かさないといけない。
- ・まちづくりに大事なものは、何より地元にある本物の資源を活用する、これをゼロにしては全く無意味。この地区にある資源、水、緑、町工場、祭り、歴史、これらを活かすこと。アジア大会選手村を契機として新たにつくっていくものもあって良い。その際には、行政ができること、住民ができること、外の住民、外国人ができることなどの役割分担が必要である。
- ・インフラ整備は行政、使い方はみなさんで、外から民間企業にも来てもらって、一緒につくっていく姿勢があって良い。

5 有識者懇談会について

港北エリアにおけるまちづくりの検討・推進について、多岐広範にわたる意見を聴取することを目的として「港北エリアまちづくり有識者懇談会」（以下「懇談会」という。）を開催しました。

懇談会では、港北エリアまちづくり将来展望の策定に向けて検討しました。

【港北エリアまちづくり有識者懇談会（構成員名簿）】

（有識者五十音順／敬称略）

	氏名	所属等
学識経験者	内田 俊宏	中京大学経済学部 客員教授
	小松 尚	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授
	中村 一樹	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科 准教授
	松本 幸正（座長）	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科 教授
行政	坂本 敏彦	名古屋市住宅都市局都市整備部まちづくり企画課長

事務局：名古屋市住宅都市局都市整備部まちづくり企画課

【港北エリアまちづくり有識者懇談会の概要】

	日時	主な議題
第1回	令和元年9月30日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ○港北エリアの現状と課題、基本理念、基本方針、まちづくりの方向性 ○まちづくりプロジェクトの検討 ○市民意向の把握 ○その他全般
第2回	令和元年12月27日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ○スケジュール ○アンケート結果概要 ○シンポジウム予定 ○港北エリアまちづくり将来ビジョン（素案）
第3回	令和2年2月14日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ○スケジュール ○シンポジウム結果概要 ○港北エリアまちづくり将来ビジョン（案）

【参考】有識者懇談会（第1回～第3回）における各構成員からの主な意見（その他参考意見）

- みなとアクルスと土古公園の回遊性が出ると港全体のグランドイメージが変わる。
- 中川運河の東海通というは橋の間は距離が離れているが、回遊性を確保するため、新たに橋がかけられないか。人道橋でも良いので検討できると良い。もしくは、広い橋をかけて上部を公園として商業立地を図るなども考えられる。
- 最先端の技術を活用したスマートシティの発想で、治安や安全対策に寄与できると良い。
- 声かけが防犯においても地域コミュニティでも大切である。安心に暮らせる、店舗の明りで安全になるなど、ビジョンに反映できると良い。
- 運河沿いのプロムナードを強調すべきである。
- 中川運河は水位一定であり、それを活かして船や浮遊建築物などの検討ができないか。
- 水上交通がささしまで繋がっているが、伏見、栄まで繋がると良い。車でなく水上交通でのスローライフが考えられる。
- 最先端工場とのイノベーションリングという考え方を反映できると良い。
- 現在あるものを維持したまま、スマート化するという趣旨として、基本理念等に下町感というキーワードがあっても良い。下町は、交流という観点においては重要であり、それらをリンクすることで、工場等が持っているポテンシャルを繋ぎ、新しい交流を生むという流れが大切である。
- 古民家再生や商店街の空き店舗のように、空き工場をリノベーションして、新しい人が入ってくる受け皿にできないか。更地にして建替えるより、既存建物を使った方が地域の特色を出すことができる。また、工場は大空間なので、商業・オフィスなどの複合用途への転換や屋根のある公園として捉えれば遊び場やスポーツ施設への転用も可能である。
- 廃工場や廃倉庫をリノベーションすることで新しい産業を導入し、産業の中身を展開していくことでイノベーションできれば良い。
- 交通というイメージよりも環境・エネルギーの視点によるまちづくりビジョンが良い。
- 環境・エネルギーの分野におけるスマートシティという視点は東邦ガスも立地しているので検討できるのではないか。
- 民間事業は、商業も工業も、デベロッパーなど様々な分野の企業がいるが、最も重要なのは地元の企業や運河沿いの工場や物流系の企業の関わり方である。
- 運河沿いの企業の協力は重要であり、セットバックなどの協力企業には税制優遇などの規制緩和や補助金などの検討が必要ではないか。
- 名古屋競馬場跡地の新しいモビリティの試みを港北エリア全体に展開できると良い。名古屋競馬場跡地開発との連携になると思うが、今後、道路の使い方が変わる中で、東海通でも歩くことができるエリア、新しいモビリティの導入や専用レーンの可能性もあるのではないか。
- 道路空間と公共空間の活用が重要である。道路は車の通行のためだけに使うのではなく、そこを経済活動としても使えると良い。

以上

6 庁内検討会について

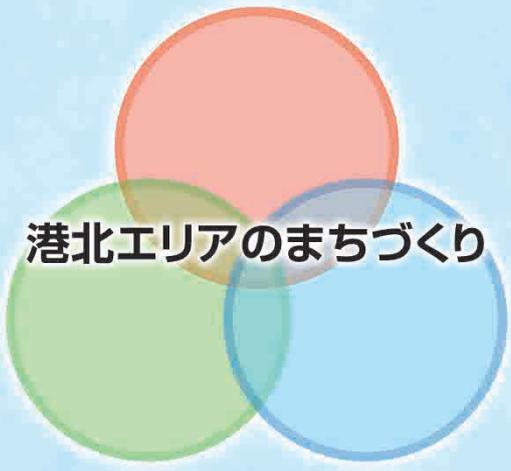
名古屋競馬場跡地におけるアジア大会選手村整備を契機とした、港北エリアでの地域の課題解決、魅力向上に資する新たな価値・機能の創出や、にぎわいと新たな地域ブランドの形成に向けた具体的な施策・事業の案を検討するため、港北エリアまちづくりプロジェクト庁内検討会を設置しました。

【港北エリアまちづくりプロジェクト庁内検討会（庁内関係者）】

名古屋市住宅都市局都市整備部長（会長）
名古屋市住宅都市局まちづくり企画課長
名古屋市総務局総合調整部アジア競技大会推進室長
名古屋市住宅都市局主幹（企画調整）
名古屋市住宅都市局都市計画部交通企画課長
名古屋市住宅都市局都市計画部交通施設管理課長
名古屋市住宅都市局都市整備部主幹（まちづくりに係る特命事項の処理担当）
名古屋市住宅都市局都市整備部名港開発振興課長
名古屋市緑政土木局主幹（企画）
名古屋市緑政土木局河川部河川計画課長
名古屋市緑政土木局緑地部緑地利活用課長
名古屋市緑政土木局緑地部緑地事業課長
名古屋市交通局営業本部企画財務部主幹（企画調整・外郭団体）
名古屋市交通局営業本部自動車部主幹（路線計画）
名古屋市上下水道局技術本部計画部主幹（雨水対策の総合調整）

【港北エリアまちづくりプロジェクト庁内検討会の概要】

	日時	主な議題
令和元年度 第1回	令和元年8月2日（金）	○港北エリアのまちづくりについて ○今後の進め方について
第2回	令和元年10月23日（水）	○第1回有識者懇談会について（報告） ○港北エリアまちづくりプロジェクトについて ○今後の進め方について
第3回	令和元年12月20日（金）	○今後の進め方について ○市民意向把握について ○まちづくりプロジェクトについて ○港北エリアまちづくり将来ビジョン（素案）について
第4回	令和2年2月12日（水）	○今後の進め方について ○市民意向把握について ○港北エリアまちづくり将来ビジョン（案）について
令和2年度 第1回	令和2年7月2日（木）	○港北エリアまちづくりについて ○今後の進め方について ○港北エリアまちづくり将来ビジョン（案）について



港北エリアのまちづくり

名古屋市住宅都市局都市整備部まちづくり企画課

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話番号：052-972-2726 FAX：052-972-4162
電子メール：a2726@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp